

2017年度・平成29年度

くずは青葉幼稚園

学校評価・自己評価



2018年 4 月

学校法人山口学園

P	標 題
2	はじめに 幼稚園（学校）評価の目的・学校評価に関する規定
3	学校評価並びに自己評価結果の公開
3	第1節. 本園の教育目標並びに 2016年度・平成28年度教育指針の設定について
3	第2節. 平成27年度に重点的に取り組んだ教育内容
3	第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況
4	第4節. 学校評価の総合的な評価結果
4	第5節. 今後取り組むべき課題
5	第6節. 財務状況
5	第7節. その他、特筆すべき事項 認定こども園への移行について
8	第8節. 本園の教育目標・教育指針 詳細
8	年長学年・5歳児
11	年中学年・4歳児
13	年少学年・3歳児
16	幼稚園全体・全学年
17	各学級 学級経営案

P	標 題
23	自己評価 詳細
23	A 教育方針・指導計画
25	B 健康
26	C 人間環境 D 環境
27	E 言葉
28	F 表現
29	G 家庭連携 H安全管理
31	I 学級運営
32	J 業務全般 K 研修と研究
33	幼稚園運営 自己評価
33	1. 幼稚園教育の基本方針と組織 2. 保育内容の確認
34	3. 研修と研究 4. 幼稚園機能の拡大
35	5. 諸法規の遵守
36	6. リスク対応 7. 適正な事務処理
37	研修内容の詳細
38	第9節. 学校関係者の評価

はじめに

本園は、昭和52年の開園以来、平成14年度まで各学期末並びに年度末に教員の反省・評価等を記録し、次年度への実践と反省を活かした教育活動の資料、また教員の指導上のポイントとして活用してきた。それは、実践に基づいた教務内容の充実を図るものと確認していたところである。その反省記録は、園全体の教育方針・並びに指針等に基づいての反省ではあるが、教員一人一人の視点の違いや、教員経験年数等により認識の差異が生じるため、共通理解を図ることが教務会議での課題となっていた。

そこで、平成15年度より「統一した評価基準」を設定し、その基準に基づき「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきた所である。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より「学校評価（並びに自己評価）」の公表（平成20年度版）を実施。以後、9年度分の学校評価（並びに自己評価）の公表を継続しているところである。内 自己評価内容及び評価基準の改編を3回にわたり改訂した。本年度（平成29年度版）においても「学校評価（自己評価）」を公開するものとする。（2018年4月公開）このことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらい、併せて学校評価における指摘事項や意見を反映し、教育目標の達成できるよう努力研鑽に励むところである。

付記 幼稚園（学校）評価の目的と学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

学校評価並びに自己評価結果の公開

第1節. 本園の教育目標並びに2017年度・平成29年度教育指針の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を調えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことを目指し、努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。この趣旨並びに目的を建学の精神、「たくましく人間性ゆたかな子どもをめざす」の言葉で現している。

2017年度・平成29年度においては、それぞれの学年において、後ページに記載の教育目標（学年単位）を設定し、保育に努めた。また、その期ごと（1～3学期終了時）に学年の単位で評価会議、その内容を教員全員で反省会議を実施し、次学期向けの課題を学年を越えて確認した。

[教育指針については年度毎に改編あり]

第2節. 平成29年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」のもと、さらに平成29年度教育目標（教育指針）を確立し、継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。

第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取り組みの状況

本園は、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施している。〔経緯については「はじめに」2頁掲載〕平成29年度においても、継続して実施した。教員は、従前通り学期毎に評価項目に沿って自己点検・自己評価を行った。これは、教師自らが指導や子どもとの関わり、並びに子ども同士の関わりへの援助について省みて、本園教育内容のより充実を目指す趣旨とした。

以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

尚、「教員 自己評価・詳細」と「園長・副園長・主任 自己評価・幼稚園運営の自己評価・幼稚園管理に関する自己評価」に分類してこれを公開する。



第4節. 学校評価の総合的な評価結果

「教員における自己評価と詳細、並びに園長・副園長・主任における自己評価」の総合的な評価は「BまたはA」とし、管理者を含め、教員全員が共通認識した。

尚、「BまたはA」の評価は、教職員の経験年数によって評価項目の意識の差は起こりえるが、教員経験を積み重ねることによりその差異は解消されるものとみなし、総合的な評価を妥当なものと認識するものである。

年度当初（2017年度4月）に「建学の精神」、加えて園長より「2017年度・教育指針」を基に、担任教諭が「学級経営案」、また、学年教諭間において、それぞれ「学年目標」を設定した。これにより、取りくむべき教育目標・運営目標について、全教職員が共通理解し指標とした。そして、教員それぞれが、学期末はもとより、日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育内容が経常的に推進されているものと認識している。今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し、努力研鑽に励む姿勢を位置づけることができた。

第5節. 今後取り組むべき課題

自己評価を行った各教員の総合判定として、記載の通り「学校評価・自己評価」の総合的なものとして公開している。自己評価については、教員個人としては、いわゆる達成度の低いと自己評価する点もあるが、今後は各項目の達成度をより高めるよう、具体的な対応やその具現化に向けて努力することを課題とした。それは、幼稚園教育の本意とする「子育て支援・援助・指導」の充実を図ることを第一とする趣旨のものである。

尚、2017年1月に社会的に取り上げられた大阪市内の学校法人運営の在り方、また設置する幼稚園の教育内容についての問題点がクローズアップされた。そして今も尚、国会などでは追及されている状況である。全国的に「子育て」「幼児教育」の在り方が課題となり、学校法人はじめ運営者、行政が真摯に取り組まれている中、残念な事象である。本法人においては、教育法他に逸脱することなく、私学である誇りをもとに「建学の精神」により充実と実践に向けて取り組んでいるところである。

現在の幼児を取り巻く環境の中で、人間関係「協同性＝友だち（子ども同士）とのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組み」の重要性を痛感するところである。そして、それぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法、更に継続して取りくめる環境や家庭との連携の在り方について研究に励むことを課題とした。

本園は平成26年夏にこれまでの特色ある、そして歴史と伝統のある幼児教育を守り、継続したいという思い、私学としての幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・幼稚園として「子ども・子育て支援新制度・認定こども園」への移行に関して、当面移行しないことと英断した。

これは、新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。本園はこれまで通りの園児受入れの方針を執り、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とするお子さんにはこれまで通り、預かり保育を行うなど、現行のままの私学・幼稚園として取り組むこととした。但し、今後においては新制度の研究を含め、より良い幼児教育を目指し、充実に向けての取り組みが必然と認識するところであり、今後の課題である。

[次ページに特記有り]

第6節. 財務状況

平成29年度財務状況は、学費収入において平成28年度対比・園児数の若干名減少したものの、学費を月1,500円増としたため学費収入は増額となった。また、年度内に以下の改修工事を行い幼児教育環境の充実を図った。①. 園内無線LAN開線工事 ②. 南園舎1F床板全張替 ③. 正門オートロック化 ④. 遊戯室音響機材入替 ⑤. 路面看板交換 ⑥. 正門横植え込み一新 一連の改修工事による支出の増加となったが、将来を見据えての改修工事であり、その教育的効果に期待するものである。

平成30年度は、62名の入園児を受付、学籍は12名程度の減少が見込まれることとなった。（前年度対比）今後は、近い将来「消費税率10%への改定」などを控え、財務状況の方向性としては、厳しい状況となること予測される。その際には、更なる納付金の改定について一考を要す時期となること予測するに至る。

平成29年度財務状況については、決算関係計算書類一式が調い次第、これを公開する。[2018年5月予定]

平成29年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

第7節. その他、特筆すべき事項

「認定こども園への移行について」

平成24年8月にできた法律「子ども・子育て関連3法」をもとに「子ども・子育て支援新制度」が、さまざまな課題が解決されないまま、平成27年4月からスタートした。この新制度をもとに、幼稚園、認定こども園、保育所の在り方が整備され、子育て支援のための大切な制度とされ、その目的は、子育ての負担を減らすこと、待機児童問題の解消、少子化に歯止めである。この制度で私立幼稚園は大きく分けると3つのタイプになり、どのタイプの幼稚園に通園するかを保護者の選択となる。一つは、新制度に移行しない私立幼稚園。新制度に移行する私立幼稚園。そして新制度の認定こども園となる。

これらの状況の中、本園は建学の精神のもと、これまでの特色付けてきた本園の歴史と伝統のある幼児教育を守り、継続したいという思い、「私学として、教育機関として」の幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・私立幼稚園として継続することとした。

何故、新制度に移行しないか〈平成26年夏〉

新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの幼稚園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。然るに新制度においては、保育を必要とする幼児で施設利用のための2号認定を受けると原則として幼稚園に入園できず、保育所と同様、市町村による施設の斡旋が行われ、保護者が希望する施設に入れない場合がある。本園はこれまで通りの園児受入れの方針とし、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とする幼児にはこれまで通り、「預かり保育」を行うなど、現行のままの幼稚園として取り組むこととした。

認定こども園の「ねらい」は下記の3点に集約できる。この「ねらい」の視点・ポイントによる本園の分析と所見は以下の通りである。

- ① 幼保一元化による質の高い幼児期の学校教育・保育の提供
- ② 待機児童問題解消のための保育の量的拡大・確保
- ③ 地域の子ども・子育て支援の充実

①に関しては、総ての子どもに質の高い幼児教育を提供することは必然である。では、本園が実践している幼児教育の質を高めようとした場合、実践すべきことは「建学の精神拡大に向けて努力研鑽すること」「教育方針や指導方針の改善・充実」「教職員一人一人の保育力の向上」等である。決して「認定こども園への移行」により本園の幼児教育の質が高まるということではない。私立幼稚園・学校法人幼稚園のままであっても認定こども園であっても、実践する幼児教育の質を高めることは必要なことである。そのため、「本園の幼児教育の質を高める」ために「認定こども園へ移行」という理論はなりたたない。

また、子ども子育て新制度では現状の私立幼稚園運営と比較した場合、事務量が増大することが予想される。さらに、預かり保育の一時預かり事業への移行や公定価格の導入による保育料の変化等により、子ども及び保護者に与える影響が決して小さいとは考えられない。そのため、上記の問題による影響が限りなく小さいと判断することができない現時点での移行は、リスクが高いと考えられる。

さらに、子ども子育て新制度の移行により「私学の公共性と自主性」のバランスが崩れ、自主性が失われるのではないかと懸念もある。私学の自主性が失われるということは、前理事長・創業者である山口亨が幼稚園設立思考し、長きにわたりその建学の精神を拡大させてきた「もの」を「縮小化」ということ認識が生じる。それは即ち、設立・創立から現在までの本園の幼児教育を肯定できないということである。もちろん新制度において「私学の自主性・独自性」が保証されるべきであるが、現状では“何とも言えない”という観点が大きい事実がある。「本園の幼児教育の質を高める」ことは「建学の精神の拡大に向けて努力研鑽すること」である点と上記において述べた通りである。すなわち、本園の幼児教育の質を高めるところか低くする可能性すら秘めているという認識が過ぎる側面を持つと認識するところである。

②に関しては、当園においても早朝保育・延長保育をとりいれ、11時間保育を実施しており、保育所と比較しても遜色ない保育時間である。また、待機児童問題で主に問題となっているのは0歳児から2歳児の所謂、乳児期の子ども達である。残念ながら、本園には乳児保育の実績・ノウハウは無いのが実情である。そのため、今すぐに乳児保育を実施するということは、現実的には考えられない。つまり、幼保連携型は無論、幼稚園型認定こども園への移行を決断したとしても、保育の量の拡大には至らないということである。

③に関しては、地域の子ども・子育て支援の充実は、新制度下においてのみ可能というわけではない。現状の私立幼稚園でも可能である点と考える。園庭開放や未就園児教室等既に実施している。必要とされる、実施すべき地域の子ども・子育て支援とは何なのかという次元から考え、実践することが大切であると考える。

平成26年初夏の時点において、上記のことを総て鑑みた場合、子ども・子育て新制度に移行することが必然とは考えられない。また、新制度がスタートした平成27年度においてこども園に意向した幼稚園の現状を聴くとき、同様にこども園移行の必然性が増すことはない点と認識した。

現状の私立幼稚園として地域の幼児教育、子育て・子育てに貢献していくことこそが、本園に求められる役割であり使命である点と考える。目先の補助金の増額に惑わされることなく、使命を果たす為にも「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」として存続するという平成26年初夏の英断を意識し、新たな次代に向けた幼児教育の在り方を考察すべき点と考える。

追 記〈平成30年3月〉

平成27年4月より「子ども子育て新制度」（以下、新制度と略）がスタートし、私立幼稚園には「認定こども園への移行」「施設給付型の幼稚園への移行」「現状の私立幼稚園として存続」の3つの選択肢が与えられた。そのような状況において本園は目先の補助金の増額に惑わされることなく、使命を果たす為にも「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」として地域の幼児教育、子育て・子育てに貢献していくことを英断した。また、同時に今後の法令並びに内閣府・関係機関の動向、とりわけ枚方市及び近隣市町村の当該内容についての方針・施策等を十分に調査並びに研究を行うことも怠らず実行した。

新制度の施行から4年目を迎える今、施行当時とは少しずつ状況は変化しつつある。新制度も若干の修正が行われ、未だ解消されない待機児童対策として平成29年の衆議院選挙では安倍内閣によって「保育無償化」公約として掲げられた。

このような状況の中で本園は「教育機関」としてどのような方向性で進めばいいのか検討し、「施設型給付の幼稚園」への移行を選択肢の一つとして含むこととした。

では、何故「施設型給付の幼稚園」への移行なのか。それには大きく2つの理由があげられる。それは「保育無償化」「処遇改善要素」である。

「保育無償化」とは、5歳までの未就学児に掛かる保育料が無償になるものである。ただし、保育所・幼稚園・こども園、さらに無認可保育所等と施設類型は多岐に渡り、各施設の保育料も当然ながら多岐に渡る。そのような状況の中で政府は平成30年の夏に有識者会議によって無償化の範囲を決定するとしている。確定した状況ではないものの、大方の見方では所謂「2号認定児」は11時間分の保育料が無償となり、「1号認定児」は4時間分の保育料が無償になり、それ以上の預かり保育に掛かる保育料は保護者負担になるのではとされている。加えて、新制度に移行していない私立幼稚園は無償化の適用範囲には入るものの厳しい内容となるとも言われている。本来、私学にとって保育料は、「子ども達に建学の精神に基づいた保育・教育を実践するために必要な金銭」を保護者に負担いただくものである。そのため、保育料を改訂し値上げする際は「建学の精神に基づいた保育・教育」を維持、または拡大発展するために値上げを行ってきた。一方、保育所は保護者の収入によって保育料が変化する応能負担であり、新制度下でも同じである。そこには「社会福祉としての保育所」と「教育機関としての幼稚園」という違いが存在していた。しかし、「保育無償化」を巡る議論の結果によっては本園が新制度に移行しているか否かで保育料が変わってしまう、無償となるかも変わってしまう状況となろうとしている。同じ保育を行っていても施設類型によって保育料が変化する。当然、保護者にとっては同じであれば低額の方が良いであろう。

次に「処遇改善要素」である。これは新制度において実施されているもので、保育士不足解消のためにまずは保育士の給与を上げようというものである。勿論、それ自体は良い事であり否定するものではない。問題は新制度に移行していない幼稚園には一切出ないことである。新制度に移行していない幼稚園にも私学助成として都道府県より処遇改善の補助金は今年度より実施されている。しかし、金額に大きな差があり、新制度に移行しているか否かで保育士・幼稚園教諭の給与は大きな差が出るのが実情である。そのため、教員新規採用も新制度に移行していない幼稚園は不利となるのである。「同一労働同一賃金」を目指そうという声が高まる中、同じ保育をしていても施設体系で賃金に差が生まれてしまう現状。当然、保育の現場で働く者にとっては賃金が高い方が良いであろう。

以上のような状況にある中で、今後未永く「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」として地域の幼児教育、子育て・子育てに貢献していくことを第一に考えた場合、新制度に移行することを完全に排除するのではなく柔軟に対応できるよう体制を整えておくことが最善ではないかと考える。よって、移行に必要な書類の準備、移行する際の行政とのスケジュールの確認などを行い、英断の時に備えることとした。

今後より一層、法令並びに内閣府・関係機関の動向、とりわけ枚方市及び近隣市町村の当該内容についての方針・施策等を十分に調査並びに研究を行い、「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」としての責任を果たせるよう努力することを特記する。

第8節. 本園の教育目標・教育指針 詳細

記載中、**朱書きの項目**については、本年度（H29）に加筆した項目。尚、昨年度よりの削除項目については年度初めに各学年において目標設定を協議の結果、削除とした。（本書に記載は無し）

年長学年・5歳児

[学年の目標]

様々な活動に意欲を持ち、友だちと協力しながら主体的に取り組み、達成感や充実感を共有する。

[健康・生活習慣]

- 1期（4・5月）◎新しい環境に慣れ安定して過ごす。
 - ◎生活習慣を見直すとともに、新しい生活の場所を知り、仕方を身につける。
 - ◎正しい挨拶の仕方を身につけ色々な人にすすんで行く。
 - ◎生活や活動の約束事を意識し、はじめをもって行動する。
 - 2期（6～8月）◎人の話を聞く大切さを感じ、注意して聞き、内容を理解する。
 - ◎身体を動かす楽しさを感じ、戸外で伸び伸びとあそぶ。
 - ◎安全に気を付けて遊具や用具を正しく使う。
 - 3期（9～12月）◎園生活での約束事を友だちと伝え合い、意識を高める。
 - ◎生活習慣を身につけ、自分で意識を高くもって意欲的に取り組む。
 - ◎病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身につける。
 - 4期（1～3月）◎身についたことを丁寧に言い、健康に気をつける。
 - ◎生活習慣や活動への見通しを持ち、友だちと助け合いながら自主的に取り組む。
- ・一日の生活の流れや行事の内容、流れ等について予め伝え、見通しを持って行動できるようにする。
 - ・友だち同士で見合いをしたり、教え合うことで意識を高め進んで行えるようにする。必要に応じ、繰り返し保育者が言葉がけたり確認し、習慣づけていく。
 - ・自分たちで整理整頓して過ごすことの心地よさを味わえるように、言葉掛ける。
 - ・最年長児であることに自覚が持てるよう話をし、生活態度や活動に取り組む姿勢で手本となる気持ちが持てるようにする。
 - ・製作時は、机の上を整理しながら活動する等、常に整理整頓を意識できるよう言葉がける。
 - ・子どもたちが、話に興味や関心を持って聞けるよう保育者は、抑揚をつけたり話す内容に応じて順序立てて話すなど伝え方を工夫する。
 - ・話を聞いて、感じたり、行動したりすることの大切さを知らせ、注意して聞こうとする意識を高める。
 - ・さまざまな運動用具を準備し、保育者が仕方やコツを伝えながら意欲的に取り組める環境を整える。
 - ・衣服調節や水分補給、手洗い、うがい、消毒を進んで行えるよう指導するとともに、伝染病やその他の病気について知り、健康への意識を高められるよう話をしていく。
 - ・友だちの様子に関心をもち、教えようとしたり出来たことを共に喜ぶなどクラスの仲間としての意識がもてるよう話をする。
 - ・保育者が個々の様子を把握し配慮や指導を要することを見極め、保護者と連携をとりながら取り組んでいく。
 - ・活動内容を十分考慮し、生活リズムを整えられるようにする。
 - ・危険について意識を高められるよう話をし、必要であれば視覚的に伝えることで理解につなげる。
また、約束事を守ることがなぜ大切なのか、理由を知らせ、自分たちで考えて生活できるようにする。
 - ・挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるよう話をするとともに、正しい挨拶の仕方を知らせる。保育者が見本となり、繰り返し伝えていく。また、返事をしっかりすることも合わせて年度初めにクラスで話をする機会を設け、意識を高めていく。
 - ・約束事を守ることがなぜ大切なのか理由を知らせ、自分たちで考えて生活ができるよう言葉掛けていく。
 - ・共同スペース（トイレ・階段・廊下）の使い方は4月に確認するとともに定期的に保育者間で話し合い、2F掲示板も活用しながら改善していく。
 - ・日頃より機敏に行動する意識付けを行なう。

[人間関係]

- 1期（4・5月）◎友だちや保育者に親しみをもち、進んで関わろうとする。
 - ◎年長児としての自覚を持ち、小さな友だちの世話を意欲的に行う。
 - ◎集団遊びに関心を持ち、ルールを伝え合いながら楽しく取り組む。

- 2期（6～8月）◎友だちと遊ぶ中で、色々な考えや思いがあることに気づき、受け止めようとする
◎気の合う友だちと一緒に考えを出し合いながら、遊びを進める。
◎集団遊びの中で勝敗がつく面白さや悔しさを共感しあい、繰り返し取り組もうとする。
- 3期（9～12月）◎ひとつの目標に向かって友だちと協力しながら、達成する喜びや楽しさを味わう。
◎目的をもってあそび、実現するために繰り返し挑戦するとともに、みんなで教え合ったり遊び方を考えようとする。
◎相手の気持ちを考え、言葉を選んだり、関わり方を自分なりに工夫し、積極的に関わろうとする。
- 4期（1～3月）◎友だちの良いところを認め合い、一緒に活動する楽しさを味わう。
◎自分たちが行ってきたことに自信を持ち、色々な人と積極的に関わろうとする。
- ・個々の内面を理解し、一人ひとりに寄り添った関わりをすることを心がけ、保育者との信頼関係を築けるようにする。
 - ・遊びの時間を十分に確保していくことで友だちと関わる時間を多く持てるようにする。子どもの遊びの様子を十分に把握できるようにする。
 - ・日頃から年下の友だちのことを意識し、関わりが持てるよう言葉がける機会をつくっていく。関わり方については自分たちで気づいたり考えながら関われるよう話をしていく。
 - ・年下の友だちへ関わろうとする気持ちを認め、自信につなげる。
 - ・他学年の様子や活動の内容について定期的に話をしたり、実際に見ることで関心が持てるようにする。
 - ・トラブルが起こった時には、子ども同士で解決していけるよう見守ったり、必要な言葉を具体的に知らせ援助していく。必要であればクラスや学年全体で考えられるよう機会を設ける。
 - ・友だちの表情に気付いたり気持ちを考えられるよう話をし、色々な角度から友だちを見ようとする気持ちを持てるようにしていくと共に、様々な友だちに積極的に関われるように言葉がける。
 - ・様々な活動を通し、友だちと力を合わせることの大切さを保育者も共感し、意欲につなげ達成感を味わえるようにする。一人ひとりの頑張りを認め自信につなげながら取り組んでいく。
 - ・友だちの良いところを発表する機会を設け、互いを認め合えるようにする。
 - ・色々な人の支えがあって生きていることを具体的な場面をあげながら話し、色々な人に思いやりや感謝の気持ちが持てるようにする。
 - ・個々の考えや思いを認め、保育者も一緒にじっくり考える時間を持つことで、自分で考え「やってみよう」という気持ちにつなげる。
 - ・友だち同士、認め合ったり励まし合える雰囲気作りをすることで苦手意識のある子どもも楽しみながら意欲的に取り組もうとする。
 - ・異年齢活動について振り返ったり、年下の友だちと関わる中で経験したことや感じたことを伝え合う機会をつくり、一人ひとりの異年齢児への意識を高める。
 - ・リーダーシップをとる子どもには遊びや活動の中心となりつつ、個々の思いに気付いたり共感・受入ることができるよう働きかける。

[環境・遊び・自然・数量]

- 1期（4・5月）◎身近な動植物に興味関心を持ち、観察したり面白さや美しさに気付くとともに世話をしたり大切に思う気持ちを持つ。
◎物の活用の仕方やその物の必要性を知り、大切にする。
- 2期（6～8月）◎栽培物の世話を通し、植物の生長に関心を持ったり、収穫の喜びを味わう。
◎砂やどろんこ、水遊びなどの活動の中でそのものの性質に気づき工夫して遊ぶ。
◎友だちとの距離感や間隔の取り方への意識を高める。
◎生活の中で、前後左右、遠近等の位置の違いや、時刻・時間などに興味や関心を持つ。
- 3期（9～12月）◎身近な遊具や用具に興味を持って関わり、考えたり試したりしながら工夫して遊ぶ。
◎日常生活の中で、数量や図形に感心を持つ。
◎自然物に関心を持ち、素材の感触や性質に気付き、遊びに取り入れようとする。
- 4期（1～3月）◎冬の事象に関心を持ち、それを取り入れて遊んだり、動植物の様子から春の訪れに興味や関心を持つ。
- ・栽培物の生長に興味を持てるよう、子ども達と定期的に観察する機会をつくると共に、保育者自身が小さな変化にも気づき話をしていく。
 - ・栽培物の世話を毎日することの大切さを知らせ、進んで行えるようにする。
 - ・保育者自身、物を大切に扱い見本となる。
 - ・物の使い方の工夫やその物の必要性について、必要に応じ自分で考えたり試して気が付けるよう見守る。
 - ・教材（折り紙、画用紙等）や玩具など、工夫の仕方で様々な活用法があることを知らせ、物への関わりを自分たちで発展させて物を大切にしたい気持ちにつなげていく。
 - ・整列、移動、円をつくるときなどには、友だちとの間隔について意識ができるよう言葉掛けると共に具体的な仕方を知らせ、理解に繋げる。

- ・遊具や用具に十分関わられるよう、環境を整える。時には、友だちが工夫して遊んでいることに気づけるよう言葉がけたり、保育者自らが工夫の仕方を示し、色々な物に興味を持って関わる機会をつくる。
- ・自然物を製作に取り入れたり、畑や裏山などを見に行く機会を設け、季節を感じられるようにする
- ・保育者自身も季節の事象に関心を持ち、季節の移り変わりに子どもたちが気付けるよう言葉がけていく。
- ・ワークブックのページや内容を一緒に読んだり、生活の中で時計を活用するなどし、文字や数字に関心が持てるようにする。
- ・科学あそびを通し、比べたり、数えたり、遊びながら興味を持てるようにする。
- ・体操や表現あそびの際には、左右を意識できるように言葉がけたり、友だちとの間隔についても知らせていく
- ・色々な事象の美しさ(植物、色、整頓など)に気付けるよう話をする。
- ・「不思議だな」「何だろう」という疑問をもち、考える力を育てる。
- ・生活の中で安全な間隔について意識しながら過ごせるよう働きかけていく。
- ・年中より興味がある遊び(ドッジボールやリレー)は早い時期より行えるようにする。継続して遊びこめるような環境を整え、保育者も出来るだけ遊びの様子を見守り、ルールを守り楽しみながら遊べるようにする。
- ・整列の仕方は具体的に知らせ、生活の中でも前後左右を意識できるよう言葉がける。
- ・運動遊びは早い時期から取り組む。また、「がんばり表」を活用し、目標を持つとともに友だち同士応援し合う気持ちがもてるようにする。

[言葉]

- 1期(4・5月)◎自分の思いや考えを相手にわかるよう言葉で伝える。
◎話しかけや問いかけにしっかりと返事をし、行動したり自分の思いを伝えようとする。
 - 2期(6～8月)◎人の話に関心を持ち、最後まで注意して聞こうとする。
 - 3期(9～12月)◎絵本や紙芝居に親しみ、興味を持って聞いたり読んだりし、想像する楽しさを味わう。
◎遊びの中で感じたことや考えたことを言葉で伝えるとともに友だちのことを認めたり、励ます声掛けを行う。
 - 4期(1～3月)◎人の言葉をよく聞き、自分の考えや経験したことを話し、伝え合う喜びを味わう。
◎絵本や物語などに親しみ、友だちや保育者と心を通わせる。
- ・友だちや保育者、様々な人との関わりの中で、必要な挨拶やことばを使ってやりとりが出来るよう、知らせていく。
 - ・挨拶は保育者が率先して行う。挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるようクラスで話し合う機会を作っていく。
 - ・友だちとの関わりの中で、嫌なことや困ったことがある時に、自分の気持ちを言葉で伝えられるよう、その都度繰り返し話をするとともに必要な言葉を具体的に知らせていく。
 - ・聞く方も最後まで相手の話を聞く気持ちが持てるよう指導していく。
 - ・友だちとの関わりの中で、ぶつかり合った時でも、自分たちで解決できるよう見守る機会をつくっていく。
 - ・絵本や紙芝居の読み聞かせの時間や自由に選び本を読む時間を確保し、色々な物語に触れられるようにする。
 - ・物語を通し、感じたことや想像したことを伝え合う機会を設ける。
 - ・思っていることを最後まで丁寧に話すことが出来るよう指導していく。
 - ・英語指導を通し、経験したことや覚えたことを、日常生活や活動に取り入れ、楽しんで行えるようにする
 - ・自分の感じたことや経験したことなどを発表する場を多く設ける。
 - ・親しみのある友だちに対しても名前を丁寧に呼んだり、言葉遣いに気を付けられるようにする。

[表現]

- 1期(4・5月)◎感じたことを自由に描いたり、作ることで表現する楽しさを味わう。
◎色々な楽器に興味を持ち、簡単な合奏を楽しむ。
 - 2期(6～8月)◎色々な歌に親しみ、歌詞やその世界を思い浮かべながら心を込めて歌う。
 - 3期(9～12月)◎曲やリズムに合わせ、全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わう。
◎楽器の音色や特徴、曲調に気付きながら演奏する。
◎感じたことや想像したこと、体験したことをイメージに合う素材や用具を用いて表現する。
 - 4期(1～3月)◎劇遊びを通して、自分のイメージを豊かにし、動きや言葉、表情で表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。
- ・年間を通して鉄琴、木琴、鍵盤ハーモニカ、打楽器に触れる機会を設け、演奏する楽しさを味わうようにすると共に、日頃から触れられるよう環境を整えておく。
 - ・歌は、歌詞の意味を伝え、気持ちを込めて歌うように指導する。
 - ・歌や楽器の取り組みでは、個々の様子を把握し、個々に合わせた指導を行い自信につなげていく。
 - ・自由に絵を描いたり、ある形から連想して絵を描く等の機会を持ち、イメージを豊かにし、伸び伸びと表現できるようにしていく。また、子ども達が自身で実感できるよう活動内容も考慮し、決定する。
 - ・リズム表現では、子ども達が興味を持ち伸び伸びと楽しめるよう題材(曲、踊り)選びを工夫する。
 - ・製作では、色々な素材や技法を取り入れていく。
 - ・色々な楽器や素材に子ども達が自由に触れられる環境を整えておくようにする。
 - ・劇遊びは子ども達の意見を大切にしながら取り入れていくことで、より意欲を高め楽しさを感じられるようにする。
 - ・歌う時の姿勢や口のあけ方なども意識できるよう言葉掛けていく。
 - ・自分のイメージや作品を発表し合う機会を多く持つ。

[遊び・全身運動] [造形・音楽リズム・自然] chart略

年中学年・4歳児

[学年の目標]

思いやりの気持ちを持ち、友だちとの関わりを深めながら活動や遊びの中で自分の力を発揮し意欲的に取り組む。

[健康・生活習慣]

- 1期(4・5月) ◎園生活の仕方がわかり見通しをもって自分の出来ることを進んでしようとする。
 - ◎手洗い・うがい・消毒を進んで行き、健康への意識を高める。
 - ◎安全な生活の仕方を知り、約束事を守ろうとする。
 - ◎戸外で身体を動かす心地良さを感じ自ら身体を動かそうとする。
 - ◎気持ちの良い挨拶や返事を進んで行う。
 - 2期(6～8月) ◎夏の生活の仕方を知り自ら進んで行き、身につける。
 - ◎園生活に見通しを持ち、自分なりにけじめを持って行動しようとする。
 - ◎安全について意識を高め、災害時の行動の仕方を考え気をつけようとする。
 - 3期(9～12月) ◎生活習慣を見直し、身についたことを継続して行う大切さに気付き、丁寧にに取り組む。
 - ◎色々な遊具や用具を使い、戸外でみんなと一緒に身体を動かすことを楽しむ。
 - 4期(1～3月) ◎身についたことを意欲的に行き、自信をもって取り組む中で、進級に期待を持つ。
 - ◎手洗い、うがいを進んで行ない病気の予防について関心を持ち進んで行う。
- ・園生活で習慣づいていることを子どもたちと確認しながら、見直す時間をつくっていき、自分でできることは自分でできるようにしていく。
 - ・出来たことを認め、自信を持てるようにする。
 - ・手洗いやうがい、消毒、衣服調節、水分補給、排泄の仕方(和式トイレ・制ズボン着用での仕方)など進んで行えるように言葉がけ気付かせていく。また、出来ているか保育者も十分に把握し、指導していく。整理整頓、身だしなみを整え、**持ち物を自分で管理する。**
 - ・集団の中の一人としての自覚を持ち、友だちとの生活のペースを合わせながら、行動する意識が持てるようにしていく。
 - ・けじめをもって話が聞けるよう、姿勢を正してから話し始めるとともに返事の大切さも伝え、話し方や導入も工夫する。
 - ・話の内容を理解し、場に応じた返答が出来るよう指導する。
 - ・日頃から正しい遊具の使い方や遊び方を伝えるとともに、みんなで活動する中で身体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを感じられるよう保育者も心地良さを共有していく。
 - ・交通安全指導や避難訓練を通して、安全な行動を身につけ、機敏に行動できるよう日頃から話を聞いてすぐ行動に移せるよう指導していく。
 - ・サーキットや体育指導で取り組んだ内容を日頃から取り組めるように、園庭に体育用具を設置し環境作りを行うことで挑戦する気持ちを育む。
 - ・順番を守ることや、並び方(間隔をあける、真っ直ぐ並ぶ)保育室や廊下の歩き方や階段の使い方(右側通行)も指導し、安全に過ごすこと、怪我を防ぐことが身につくようにする。
 - ・時間に余裕を持つとともに、静と動のバランスをとり、子ども達が落ちついて行動できるようにするとともに**保育者自身も保育への見直しを持ち、言葉掛けていく。**
 - ・共同スペースの使い方について見直し、正しく使用できるよう働きかけていく。
 - ・保育者が見本となり、正しい挨拶の仕方や元気よく行うことが習慣づくようにする。

[人間関係]

- 1期(4・5月) ◎新しい友だちや保育者に親しみ、一緒に過ごすことの喜びを味わう。
 - ◎年下の友だちに思いやりの気持ちを持って関わろうとする。
 - 2期(6～8月) ◎好きな遊びを通して、友だちの個性や良い所に気付き、やりとりを楽しみながら遊びこむ。
 - ◎異年齢や学年の友だちに親しみを持ち、触れ合いながら遊ぶことを楽しむ。
 - 3期(9～12月) ◎友だちの思いを受け止めながら自分の思いも相手にわかるように伝えようとする。
 - ◎クラスの友だちと一つのことに取り組む楽しさを味わう中で友だちの大切さを感じ、クラス意識を高める。
 - ◎友だちの思いを表情や言葉から汲み取り行動しようとする。
 - 4期(1～3月) ◎活動や遊びの中で友だちと一緒に物事をすすめたり、解決しようとする。
 - ◎**色々な友だちに親しみを持ち、積極的に関わろうとする。**
- ・保育者は、一人ひとりの気持ちを受け止め、安心できるよう信頼関係をつくっていく。
 - ・トラブルでの仲立ちとなる際は、言葉で思いを伝え合ったり、受け入れることの大切さを伝えていく。様子を見ながら必要な言葉を知らせ見守り、自分たちで解決する力を育む。
 - ・好きな遊びを見つけ、じっくり取り組める場所や時間を確保する。個々での遊びに取り組める時間を設けることで、友だちとの関わりを深められるようにする。遊びが広がるように保育者が仲立ちとなったり、リーダー的存在の子どもを遊びの中心におくなどする。**また、特に配慮が必要な子どもは保育者間で連携をとり、友だちとの関わるを深める。**
 - ・集団あそびにも積極的に取り組めるようにし、クラスや学年の友だちとの関わりを深める。

- ・異年齢児と関わる時間を設け、具体的な関わり方や言葉掛けの仕方を知らせ、思いやりを持って関われるようにする。〔年少児に着替えを教えたり、園での約束事を知らせるようにすることで自らの意識向上にもつなげる〕〔年長児と関わる中で教えてもらう経験から憧れの気持ちを持ち、やってみようとする思いにつなげる〕〔クラスの友だちとの関わり方につなげる〕
- ・当番活動や自分の感じたことや思ったこと、作品を発表する機会を設け、相手に伝わる伝え方に気付けるようにし、自らも話を聞く大切さに気付けるようにする。
- ・学年での活動や横割り活動も取り入れ、色々な友だちとの関わりを深められるようにする。また、保育者も全体の様子を把握できるようにし共通理解を図る。
- ・友だちに興味を持てるように、友だちの頑張りや良いところに気付き、認め合えるよう保育者も率先して言葉掛ける。
- ・保育者間で子どもが興味を持っている遊びや、遊び方を共有していくようにするとともに子ども同士で伝え合う環境づくりをしていく。

[環境・遊び]

- 1期（4・5月）◎季節の植物や生き物に気付き、興味や関心を持つ。
◎保育室の整理整頓、おもちゃの片付けなど進んで行ない最後まで気持ちよく過ごせる環境を整えようとする。
◎ものを大切にすることをもち、丁寧に扱う。
 - 2期（6～8月）◎水や泥、砂に触れて夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
◎野菜の栽培を通し、世話をすることで生長する様子に感動や期待を持つ。
 - 3期（9～12月）◎季節の変化に気付き、植物や果物の名前や特徴を知り、興味を持つ。
◎色々な活動（廃材遊び、楽器遊び等）を通して、物の性質や特徴を知り、興味や関心を持って取り入れて遊ぼうとする。
 - 4期（1～3月）◎自分なりの遊びのイメージや目標を持ち、友だちと共有しながら継続して取り組む。
◎友だちと意見を出しあい、工夫しながら遊びを発展させ、役割分担をしながら遊びを進めようとする。
- ・裏山（自然観察園）散策や市民の森公園散策を通して、自然物や季節の移り変わりに気付き親しめるようにする。
 - ・子ども達が、興味を持っているものを保育者も把握し、環境をととのえて遊びを充実させていく。
 - ・自然物等を使って遊ぶ時間を十分に確保し、その中で工夫したり物を大切にすることを育てる。
 - ・園庭に咲いている植物や虫に興味・関心を持てるよう図鑑や絵本をみれるよう環境を整える。また、今まで世話してきたチューリップが咲いたことに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・屋上や戸外で食事をする機会を設け、戸外で過ごす心地良さを味わえるようにする。
 - ・水や泥の感触を味わえるようにするとともに取り入れながら全身をつかう遊びを伝える。
 - ・水に慣れるよう年少時から取り組んだフープくぐりや列車ごっこ遊び、自然に水と親しめるような遊びに取り組んでいく。
 - ・当番活動の中で整理整頓を呼びかけるとともに進んで行えるよう指導していく。（トイレのスリッパ・おもちゃ箱・本棚・かばんの片付け方・身だしなみ等を確認する）
 - ・日付や天気を子ども達と毎日確認し、正しい数字の読み方を覚え、日々の変化に興味や、持てるように指導していく。
 - ・野菜の生長を見たり、収穫し食することで食物への関心がもてるようにする。
 - ・伝承遊びや集団遊びを取り入れ、自分たちでルールを考えたり遊びをすすめていく力を育む。
 - ・運動用具や縄跳びに継続して取り組む中で、挑戦したり、繰り返し取り組む大切さを感じられるようにする。みんなの前で練習の成果を発揮できる場も設け、更なる意欲につなげる。
 - ・みんなで使うものや、自分のものを大切に扱えるよう言葉掛け、意識ができるようにしていく。

[言葉]

- 1期（4・5月）◎経験し感じたことを自分なりの言葉で表現しようとする。
◎保育者や友だちに進んで挨拶や返事をする。
◎絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く楽しさを味わう。
 - 2期（6～8月）◎人の話を興味を持って聞き、共感したことを言葉で伝え合う楽しさを味わう。
◎正しい言葉の使い方を身につけ優しく伝えようとする。
◎想像を膨らませ、物語を作る楽しさを味わう。
 - 3期（9～12月）◎友だちの頑張る姿や良いところに気付き、認め合い伝え合う喜びを味わう。
◎色々な曲を歌い、歌詞の意味を理解し感情を込めて歌う。
 - 4期（1～3月）◎友だちとの言葉のやりとりのおもしろさを味わう。
◎クラスや異年齢の友だちに思いやりを持って関わり、気づいた事や感じたことを伝え合う。
- ・クラス内で発表し合える機会を作り、友だちの話に興味を持つとともに感じたことや経験したことを自分の言葉でわかりやすく伝えられるように援助していく。また、相手が理解できているか、気かけながら会話を進めていけるようにする。

- ・日々の活動で子どもたちが努力していることに保育者が気づき、言葉かけることで子ども達も認め合えるようにしていく。
- ・日常生活で必要な挨拶が気持ちよく行えるよう指導し、返事をする事の大切さに気付けるよう話をしている。
- ・バス、徒歩通園での登降時の挨拶についても継続して指導を行う。
- ・互いの気持ちを受け止められるように場面に応じた仲立ちをし、気持ちの表し方や伝え方に自ら気付けるようにしていく。
- ・正しい言葉の使い方や、丁寧な言い回しを伝えていく。
- ・歌詞の意味を知らせ情景を思い浮かべながら、気持ちを込められるよう指導する。
- ・読みきかせや素話をするときは、声の強弱等に気をつけ子ども達がイメージを膨らませ聞けるようにするとともに、毎日保育の中で時間を作り、継続していく。
- ・様々な活動の中で遊びを発展できるよう具体的な言葉や関わり方を知らせる。

[表現]

- 1期（4・5月）◎身体を動かして遊んだり、音や色等さまざまなことを感じながら遊ぶ。
◎経験したことを思い浮かべながら表現しようとする。
◎リズム遊びを通して、身体を動かし伸び伸びと表現する。
 - 2期（6～8月）◎楽器の音色、特徴や曲調に気付きながら演奏する。
◎リズム遊びを通して、力の加減や身体の動かし方を身につけ、伸び伸びと表現する。
 - 3期（9～12月）◎友だちと音やリズム、動きを揃えて表現する楽しさを味わう。
◎イメージを膨らませ自分なりに伸び伸びと表現する。
◎クラスの友だちとひとつのものをつくりあげたり、表現する楽しさを味わう。
 - 4期（1～3月）◎物語をイメージして役になりきり表現し友だちの良いところを取り入れたり工夫しながら取り組もうとする。
◎感じたことを様々な方法で表現する楽しさを味わう。
- ・さまざまな素材や表現に触れ、工夫しながら表現できるよう提供していく。また、色々な素材や用具を目的に合わせて選べるように指導していく。
 - ・話を聞いて自分なりにイメージして言葉や身体で表現する機会をつくる。また、保育者も子どもの言葉や表現を引き出せるように言葉掛けていく。
 - ・導入の仕方を十分に考慮し、イメージや意欲を高められるようにする。
 - ・年少時に引き続き、リズム遊びを取り入れ、身体全体で表現したり、音楽リズムに合わせて表現する楽しさを味わえるようにする。また、少人数グループや全員で行える活動も取り入れ、友だちと揃えたり触れ合えるようにする。その中で、力の加減や間隔の取り方、細かい身体の動かし方等も身につくようにする。
 - ・楽器に親しんで使い慣れるようにするとともに簡単なリズム打ちを楽しんで行えるよう指導する。リズムが揃ったり音が重なり合う美しさにも気付けるように言葉掛けていく。
 - ・作品を見合い、工夫した所や良いところを言いあう機会を設け、友だちの表現に興味を持つとともに自分の表現（作品）に自信を持てるようにする。
 - ・自由画帳を活用し、自由に絵を描く経験を積む。
 - ・クラスで定期的に取り組む時間を設け、玩具だけに偏らずに色々な遊びに取り組めるようにする。
 - ・テーマを決めて描いたり、物語を聞いてイメージして描く活動も取り入れ、自分なりにイメージを膨らませ、思い思いに表現する力を育む。
 - ・用具を使いこなせるように、活動内容を工夫しながら指導していく。
 - ・同じ技法を繰り返し取り入れ経験することで身につけ、豊かな表現力を育む。その中で工夫しながらじっくり取り組んだり、丁寧に取り組み、細やかさが身に付くように指導する。
 - ・様々な歌をうたう中で曲の強弱や速度、心情面や表現の仕方について知らせ豊かな表現ができるようにする。

[遊び・全身運動] [造形・音楽リズム・自然] chart略

年少学年・3歳児

[学年の目標]

基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。

[人間関係]

- 1期（4・5月）◎身近な人の存在に気付き、興味を持つ。
◎友だちや保育者に親しみをもち、安定して過ごす。
 - 2期（6～8月）◎好きな遊びを見つけて友だちと一緒に遊ぼうとする。
◎保育者に親しみをもち、触れ合ったり一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - 3期（9～12月）◎色々な友だちに興味をもち、一緒に遊ぶことや活動を楽しむ。
◎遊びを楽しむ中で友だちとのかかわり方を知る。
 - 4期（1～3月）◎自分の思いを相手に言葉でつたえようとする。
◎友だちにも思いがあることを知り、受け入れようとする。
◎異年齢活動や横割り活動を通し、色々な友だちに親しみをもち、関わりを楽しむ。
- ・一人一人スキンシップを図り、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く。
 - ・それぞれが好きな遊びを始められるようにコーナーを作る等、安心して過ごせる環境を整える。
 - ・友だちの遊びに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・まねっこ遊びや追いかけてっこ等、簡単な遊びを通して保育者の動きや言葉に関心が持てるようにする。
 - ・自分で伝えることが出来たことをしっかり認め、自信につなげる。
 - ・保育者が率先して遊びに誘いかけ、多くの子ども達と関われるようにする。
 - ・集団遊びを取り入れ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
 - ・異年齢児に親しみや憧れの気持ちを持てるよう関わる機会をつくる。
 - ・保育者が仲立ちとなり、言葉を代弁したり友だちの思いを知らせ、気付けるようにする。
 - ・横割り活動を取り入れ、色々な友だちや保育者に親しみ、関わりを深められるようにする。
 - ・友だちとの関わりの中で適度な距離感や接し方を気付けるようにする。
 - ・友だちと遊ぶことにあまり関心が持てない子どもには、好きな遊びを通して気の合う友だちを見つけられるよう仲立ちをしていく。

[健康・生活習慣]

- 1期（4・5月）◎生活に必要な場所を知り、仕方や約束ごとを知る。
◎園生活に慣れ、安定して過ごす。
◎排泄の仕方を覚え、自分でしようとする。
 - 2期（6～8月）◎着換えの仕方を覚え、自分でしようとする。
◎危険な場所や遊び方、災害時等の行動の仕方を知り気をつけようとする。
◎食物に関心をもち、食べることを楽しむ。
 - 3期（9～12月）◎自分の身の回りのことを進んで行おうとする。
◎戸外で思いっきり身体を動かす心地良さを味わう。
 - 4期（1～3月）◎安定した気持ちで園生活を送り、自信を持って伸び伸びと行動する。
◎冬の生活の仕方を覚え、進んで行おうとする。
◎園生活に見通しを持ち、自分なりにけじめを持って行動しようとする。
- ・園生活の仕方や流れを一つひとつ丁寧に知らせ、慣れることで心の安定につなげる。
 - ・生活習慣や約束事（交通ルールや災害時の行動）についての視覚的教材を活用し、理解につなげる。
 - ・保育者間で子ども達の様子について定期的に話し合い、その時に必要な指導を行う。
 - ・日頃より食育を通して食物に興味を持てるよう伝えていく。
 - ・絵本等を活用し、興味・関心が持てるようにする。
 - ・出来るようになったことや、自分でしようとする気持ちを認めたり、保育者と思いきり遊び、楽しさを味わえるよう活動を工夫する。
 - ・保育者が見本となるよう率先して挨拶を行い、習慣づける。
 - ・出来るようになったことについては任せ、自主的に行えるようにする。確認は行なうようにする。
 - ・手洗い、うがい、消毒は丁寧にできるよう指導するとともに確認を行なう。うがいは、2学期からコップを利用してしっかりと行えるよう習慣づけていく。消毒は2学期から行えるよう、安定を目指す。
 - ・子どもたちの成長段階に合わせ、和式トイレの仕方や、制ズボンを下げずに排泄をする仕方を知らせていく。
 - ・子どもたちが落ち着いて行動できるような環境作り（室内の清掃、子どもの導線、保育者自身の言動など）を行なうとともに、自分で気づけるような言葉かけをしていく。
 - ・手洗い場やトイレ等の使い方を知らせ、清潔に保ち使用できるようにする。
 - ・個々の様子に応じ、こまめに保護者と連携をとる。
 - ・身だしなみを整えることや整理整頓を行い、習慣づけていく。
 - ・異年齢の友だちを手本としたり教えてもらいながら、園生活の約束事を守る意識を高める。

[環境・遊び]

- 1期（4・5月）◎自分の好きな遊びや場所を見つけて遊ぶ。
◎戸外の自然に触れ、感じたり発見して楽しむ。
- 2期（6～8月）◎水、砂、泥などの感触を楽しみ伸び伸びと遊ぶ。
◎植物の生長に興味を持ち、喜んで世話をする。

3期（9～12月）◎秋の自然に興味を持ち、見たり触れたり、遊びに取り入れて楽しむ。

◎身近な物に愛着を持ち、大切にしようとする。

4期（1～3月）◎冬の自然の不思議さやおもしろさに気付く。

◎友だちと一緒に遊ぶ中で共感し合う喜びを味わう。

- ・固定遊具や玩具の使い方や約束事を知らせ、安全に楽しく遊べるようにする。
- ・園内を巡ったり、遊んだりして色々な場所や自然に興味をもてるようにする。
- ・保育者や友だちの遊んでいる様子を見せ、遊びに関心を持つよう誘いかける。
- ・植物の生長過程に気付けるよう話をし、収穫に期待が持てるようにする。
- ・自然物を遊びや活動に取り入れることで季節の移り変わりを感じられるようにする。
- ・季節の移り変わりや、自然現象に気付けるよう言葉がける。
- ・そのものの必要性や、そのものがあることによって遊びが楽しくなることを伝え、愛着をもてるようにする。
- ・遊びや活動の中で子どもが驚いたり、感動したりする気持ちに共感し、より興味関心が持てるようにする。
- ・子ども達の話丁寧聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。

[言葉]

1期（4・5月）◎生活の中で大切な挨拶や、返事の仕方を知り元気よく行なう。

◎自分の思いを保育者に伝えようとする。

2期（6～8月）◎遊びや生活の中で必要な言葉を知り、つかう。

◎自分の経験や思いを友だちや保育者に伝える楽しさを味わう。

3期（9～12月）◎人の話をよく聞き、自分なりに理解しようとする。

◎遊びの中で友だちと言葉のやりとりを楽しむ。

4期（1～3月）◎自分が経験したことや想像したことを伝え合う喜びを味わう。

◎絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、イメージを膨らませる。

- ・絵本や素話を聞かせ、人の話に耳を傾けたり興味を持てるようにする。
- ・保育者が見本となるよう率先して挨拶を行う。
- ・状況に合わせて具体的な言葉をその都度知らせ、その場に見合った言葉や必要な言葉を使えるようにする。
- ・子どもの言葉を保育者が受け止め聞いてもらう喜びを味わえるようにする。
- ・必要に応じ保育者が言葉がけることで自分の思いを言葉にできるよう援助する。
- ・子ども達が興味をもって聞けるよう話し方や話す内容を工夫する。
- ・色々なごっこ遊びを提案し、友だちや保育者と言葉のやりとりを楽しみながら遊べるようにする。
- ・自分の感じたことや経験したことを発表したり伝え合う機会を持ち、友だちの話に関心を持てるようにする。
- ・子ども達の話丁寧聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。
- ・口調や言葉づかいに気付き、気を付けられるよう、その都度知らせていく。

[表現]

1期（4・5月）◎描画活動や製作活動に興味を持つ。

◎手遊びや歌に親しみ、興味を持つ。

◎保育者や友だちと一緒にリズムに合わせて身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

2期（6～8月）◎色々な材料や用具で描いたり作ったりすることを楽しむ。

◎色々な楽器に興味・関心を持ち、音をならすことを楽しむ。

3期（9～12月）◎自分なりにイメージしたものを伸び伸びと描いたり作ったりして楽しむ。

◎友だちと一緒に歌をうたったり、合奏する楽しさを味わう。

4期（1～3月）◎物語に親しみ、自分なりに伸び伸びと表現することを楽しむ。

◎用具の使い方を身につけ、イメージしたものを自分なりに表現しようとする。

- ・子どもの歌いやすい歌や興味をもっている歌、手遊びを取り入れる。
- ・リトミックを取り入れ音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わうようにする。
- ・用具、楽器の使い方を知らせ、正しく扱えるようにする。
- ・子どもの興味や成長段階に合わせて、色々な経験ができるよう、活動を考慮する。
- ・子どもの表現したいことを認め、自信につなげ伸び伸びと表現できるようにする。
- ・友だちの意見に関心を持ち、取り入れられるよう言葉をひろったり、呼びかけをする。
- ・色々な楽器の音の違いに気付くよう言葉掛ける。
- ・保育者も歌をうたったりピアノ伴奏をし、楽しい雰囲気作りをする。
- ・日頃より、絵本や素話を取り入れ、物語に親しみが持てるようにする。
- ・子どものイメージを汲み取りながら手順や方法を一緒に考えたり、手掛かりになるよう援助する。
- ・できた喜びや、表現する楽しさを共感し、満足感や自信につなげる。
- ・製作・描画では、子供が自分なりにイメージし、表現できるよう、導入方法や取り組み方を考慮する。
- ・様々な素材や廃材・自然物等に触れ、製作活動が楽しめるようにする。

[遊び・全身運動] [造形・音楽リズム・自然] chart略

幼稚園全体・全学年

【目 標】 異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1. 異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3. すずんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

〔2017年度 異年齢児による教育活動の取り組み〕

◎ 入園・進級当初 [4月・5月]

- 保育目標 ① 異年齢の存在を知らせ親しむ。 ② まわりの人へ親しみをもつ。
③ 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする。
④ 自分たちができることを考え行おうとする。
- 教育活動 ① 園内めぐり→全学年 ② 給食準備手伝い→全学年
③ 食育指導→全学年・市民の森散策→年中・年長

◎ 異年齢の友達に親しむ [6月・7月・8月]

- 保育目標 ① 異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする。
② 異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする。
③ 異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する。
④ 異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 教育活動 ① 歯磨き指導 ② ダンスを踊る ③ 笹飾り→全学年 ④ 異年齢チームでの活動→年中・年長
⑤ 市民の森散策→年中・年長 ⑥ ディサービスセンター訪問→年長
⑦ 夏期保育・夏期預かり保育

◎ 異年齢の友達との関わりが深まる [9月・10月・11月・12月]

- 保育目標 ① 異年齢の友達との関わり方を知る。
② 自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする。
③ 異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる。
- 教育活動 ① 運動会(異年齢リズム)→全学年
② 10月異年齢活動(市民の森散策、構成遊び)→全学年
③ いもほり(年中・年長) ④ 交通安全指導→全学年
⑤ ディサービスセンター訪問→年長 ⑥ 11月異年齢活動
⑦ 紙芝居読み聞かせ→全学年

◎ 異年齢の友達との活動に安心感をもつ [1月・2月・3月]

- 保育目標 ① 異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する。
② 今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる。
- 教育活動 ① 朝の集いゲーム ② お正月遊び ③ 一日入園 ④ 昼食会
⑤ 誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授 ⑥ お別れの集い→全学年
⑦ 異年齢保育→年長 ⑧ 年長児へのプレゼントづくり→年少・年中
⑨ 卒園製作→年長 ⑩ 歩こう会

年間を通し、「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わりが、さりげなく自然になるよう教育目標として設定した。異年齢児の交流は決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると確信して重点目標とした。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されるものと認識している。

各学級 学級経営案

年度初に各担任教諭が設定した「学級経営案」を公開

年 み れ	◎基本的な生活習慣を身に付け、進んで行えるクラス ・一つひとつの仕方や流れを丁寧に知らせ、理解に繋げる。 ・個々に合った言葉がけや援助を行い、身につくようにしていく。 ・家庭と連携をとり、個々の意識や意欲を高めていく。 ・自分でできるようになってきたら任せる部分を多くし、自主的に行えるよう見届けると共に、最終確認をしっかり行うようにする。 ・挨拶、返事の大切さを伝え、保育者が見本となって行なう。 ・頑張りを認めたり、出来るようになった喜びを共感し、自信や意欲に繋げる。 ◎色々な友だちや保育者に親しみをもち、思いやりを持って関わるができるクラス ・色々な友だちに関心を持ち、関わりを持てるよう言葉がけや仲立ちをする。 ・じっくりと遊び込めるよう、時間の確保や環境作りをすると共に、集団遊びに取り組み、友だちと遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・自分の思いを言葉にしたり、友だちの思いに気付けるよう働きかける。 ・伝え方や関わり方を一緒に考えたり、知らせていく。 ・保育者自身も言葉使いに気を付けると共に、思いやりのある行動をとる。 ◎様々な事に興味を持って意欲的に取り組み、楽しさや喜びを共感し合えるクラス ・話し方や内容を十分考慮し、活動に興味を持てるようにする。 ・子ども達の思いや考えを受け止めながら、話や活動を進めることで意欲に繋げる。 ・楽しさ嬉しさを言葉にしながら共感し、味わえるようにしていく。 ・様々な活動をバランスよく行うと共に、自主活動の時間も十分に設け、活動や遊びを通し、友だちや保育者との関わりを楽しめるようにしていく。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、感じたことを伸び伸び表現できるクラス ・子どもの興味、関心、発達段階に応じ取り入れる内容を考えていく。 ・歌、楽器遊びではリズムに合わせて表現する楽しさや友だちと合わせる面白さを感じられるようにする。 ・色々な技法や用具の使い方、作り方を丁寧に知らせていき、関心を持ち自分なりに意識して取り組めるようにする。 ・保育者が見本となり、楽しさや仕方を伝え、興味や意欲に繋げる。 ・一人ひとりの表現を認め、自信へと繋げる。
少 た ん ぼ ぼ	◎基本的な生活習慣を身に付け、意欲的に行うクラス ・トイレの正しい使い方を丁寧に知らせていき、覚え、進んでトイレにいけるようにしていく。 ・衣服の着脱の仕方について保育者が援助しながら知らせていき、一人で行えるようにしていく。 ・返事、挨拶がしっかり行えるよう保育者が手本となり、その大切さを伝えていく。 ・毎日少しでも完食に近づけるよう、個々の様子に合わせて援助を行なう。 ◎友だちや保育者と親しみをもち、思いやりの気持ちを育めるクラス ・園や保育者に親しみをもち、毎日安心して園生活を送れるよう子ども一人ひとりの表情や行動の変化を見逃さず、個々に合った関わりをしていく。 ・友だちと関わる機会をつくり、その中で一緒に遊ぶことの楽しさを味わい、親しみを持てるようにする。 ・保育者一人ひとりの良いところを認め、思いやる言葉がけを行うことで、子ども達が友だちの存在を認められるようにする。 ◎自分の思いを相手に言葉で伝え合えるクラス ・友だちに自分と異なる考え方があることを知らせ、関わり方を一緒に考え、友だちの意見も受け入れようとする気持ちを育てる。 ・相手に自分の意見を伝えられるよう仲立ちをし、援助する。 ・困っている時、助けが必要な時や失敗した時など、正直に言葉で伝える大切さを知らせ、日々信頼関係を築き、子どもが保育者に援助を求めたり、思いを伝えたやすい環境づくりをする。 ◎様々な活動に興味を持ち、楽しみながら取り組めるクラス ・子どもが活動内容に興味関心を持ちやすくするように、事前準備や導入を丁寧に行う。 ・子どもが活動しやすく使う道具を置く位置や子どもが通る動線を考え、準備する。 ・友だちと協力して取り組むことの楽しさを味わえるよう働きかける。 ・活動の中で一人ひとりの発見や気づきに共感すると共に、出来ていることや頑張っていることを認め、自信や意欲を持ち、取り組めるようにする。

各学級 学級経営案

年 ら	ば ◎基本的な生活習慣を身に付け、進んで行おうとするクラス ・一人ひとりに生活の仕方を丁寧に知らせると共に、個々の様子に応じた言葉がけ、援助を行うことでしっかり身に付くようにする。 ・挨拶、返事の大切さについて伝え、保育者が手本となり行っていき、挨拶を交わす返事をする心の心地よさに気づけるようにする。 ・出来るようになったこと、頑張りを認め自信に繋げていくと共に継続して行えるようにする。 ◎話をしっかり聞き、様々な事に興味を持って意欲的に取り組むクラス ・話を聞く大切さについて知らせ、姿勢・態度を身に付けられるよう繰り返し伝える。 ・話の仕方、導入など理解しやすい工夫をし、子ども達が興味を持ち話を聞けるようにする。また、理解出来ているのか確認をしながら活動を進める。 ・子ども達の発見や驚きに共感し、様々な事への関心を高められるようにする。 ・自分の感じたことを話す機会をつくり、思いを受け止めてもらえることに安心感を得られるようにしたり、友だちの話を聞くことが自然と出来るようにする。 ◎人を思いやる気持ちを大切に、一緒に遊んだり活動に取り組む事の楽しさや喜びを感じるクラス ・友だちとの関わりの中で自分の思いを伝えていけるよう、思いを受け止め、伝え方を知らせていく。 ・友だちの思いに気付いたり受け止められるよう仲立ちをし、関わりを見守る。 ・集団遊びやごっこ遊びなど様々な遊びに知らせ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・歌や手遊び、楽器遊びを通してリズムに合わせ表現する楽しさや友だちと合わせる面白さを感じられるようにする。 ・リトミックを取り入れ、様々なものになりきり全身を使い伸び伸びと表現する楽しさを味わえるようにする。 ・一人ひとりの表現や感じたことを認めることで自信を持ち、自分なりの表現を楽しめるようにする。
少 も	も ◎基本的な生活習慣を身に付け、挨拶や返事を進んで行えるクラス ・生活習慣について一つひとつ丁寧に知らせ、個々に合った言葉掛けや援助を行い、身に付くようにしていく。 ・出来るようになったことを認め、自信に繋がると共に、自主的に行えるようにする。 ・保育者が見本となり、元気に挨拶や返事をし、その大切さに気づき進んで行えるようにする。 ◎思いやりの気持ちを大切に、自分の思いを言葉で伝えることが出来るクラス ・保育者が子どもの気持ちや言葉を一つひとつ受け止め、聞いてもらうことの喜びを感じられるようにする。 ・一人ひとりの良いところを認め、思いやる言葉がけを行い、友だちの良いところに気づき、思いやりの気持ちが持てるようにする。 ・言葉づかいや伝え方について知らせ、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。 ・必要に応じて保育者が仲立ちとなり、友だちの思いに気付き受け止めながら、友だちとの関わりを楽しめるようにする。 ◎様々なことに興味を持ち、意欲的に取り組むクラス ・話し方や話す内容を工夫し、一つひとつの活動に興味を持てるようにする。 ・子どもの興味関心に基づいた遊びを取り入れ、楽しみながら意欲的に取り組めるようにする。 ・遊びや活動の中で子どもが感じたことに共感し、継続して取り組み広げていけるような環境作りを行う。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・手遊びや季節の歌、リズム遊びを多く取り入れ、楽しんで表現できるようにする。 ・リズムに合わせて身体を動かす楽しさを共有し、友だちの表現にも関心が持てるように言葉掛ける。 ・一人ひとりの表現を認め、自信に繋がると共に、伸び伸びと表現できるようにする。 ・様々な素材技法を取り入れ、楽しんで製作活動に取り組めるようにする。



各学級 学級経営案

年少	ふ じ ◎園生活の楽しさを感じながら安定して過ごし、伸び伸びと元気の良いクラス ・新しい環境の不安な気持ちを受け止め、スキンシップを図るなどし、安心できるようにする。 ・遊びの時間を十分に確保し、自分の好きな遊びを見つけ、伸び伸びと過ごせるようにする。 ・挨拶や返事の仕方の大切さを伝えと共に、保育者が見本となり、元氣よく行えるようにする。 ・個々のがんばりや良いところを認め、自信と意欲を持ち伸び伸びと過ごせるようにする。 ◎基本的な生活習慣を身に付け、進んで行えるクラス ・一人ひとりに生活の仕方を丁寧に知らせると共に、個々の成長段階を見極め、それぞれに合った言葉がけや援助を行い身につくようにしていく。 ・出来るようになったことを認め、継続して行えるようにするとともに定期的に全体で見なおすようにし、意識を高める。 ◎色々な友だちと関わることを楽しみ、思いやることの出来るクラス ・集団遊びなどを多く取り入れたり、日々の遊びの中で友達と関われるよう援助し、一緒に遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。 ・保育者が認める・励ます・共に喜ぶなど、一人ひとりの子どもに優しく丁寧にに関わり、その雰囲気の中で自然と相手を思いやり、優しく関わる気持ちを育てていく。 ・自分の思いを言葉にして伝えられるよう、表現の仕方を知らせていくと共に友だちにも思いがあることに気づけるよう話をし、認めたり受け入れられるよう仲立ちをしていく。 ◎様々な活動に興味関心を持ち、意欲的に楽しんで取り組めるクラス ・一つひとつの活動に興味を持てるよう導入について十分考慮し、楽しみな気持ちや意欲に繋げる。 ・苦手意識のあることには気持ちを受け止め、安心できるようにするとともに、挑戦してみようという気持ちを育てていくようにする。 ・人の話をよく聞くこと、けじめを持って行動することの大切さを伝えと共に、保育者も分かりやすく面白いと感じられるよう話し方の工夫をする。 ・出来た事を喜びを共感し、自信や次への意欲に繋げられるようにする。 ◎歌やリズム遊び、造形活動に親しみ感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・歌や手遊びを通し、リズムに合わせて表現する楽しさや友だちと一緒に表現する楽しさを感じられるようにする。 ・リズム遊びやリトミックを通し、全身を使って伸び伸びと表現することの楽しさが味わえるようにする。 ・一人ひとりが感じたことや表現を認め、自信を持ち、自分のなりの表現を楽しめるようにする
年中 め	う ◎生活習慣を身に付け、進んで丁寧に行うことのできるクラス ・進級時は一つひとつ生活習慣、約束事を確認し、身に付けられるようにする。 ・身についたことは継続して自ら取り組めるよう、年間を通して働きかける。 ・子ども達に任せる部分を増やし、自主性を高めていく。 ・日々の活動、一日の流れに見通しを保育者が持ち、何事にも時間に余裕を持って落ち着いて行動できるようにする。 ◎様々なことに興味を持ち、何事にも意欲的・主体的に取り組めるクラス ・一つひとつの活動に興味を持てるよう、導入について十分考慮し、意欲に繋げる。 ・子どもが興味を持っていることや発言したことを見落とさず、寄り添い共感していく。 ・苦手意識のあることには気持ちを受け止め、安心できるようにするとともに、挑戦してみようという気持ちを育てていくようにする。 ・みんなで取り組んだこと、頑張ったことについて話をし、クラス・学年意識を高める。また、友だちと力を合わせて取り組む事の大切さや楽しさに気づけるよう話をし、主体的に活動に参加できるようにする。 ◎友だちに思いやりを持って関わる事が出来るクラス ・自主活動や集団遊びを通し友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、関わりを深められるようにする。 ・一人ひとりの思いを大切にしながら友だちとのぶつかり合いの中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づき関われるよう援助・助言をしていく。 ・友だちの良いところや頑張っているところを認め合えるよう働きかける。 ・個々の様子、友だちとの関わりを保育者は見逃さずにしっかりと把握していく。 ◎歌やリズム、造形遊びに親しみ、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・季節の歌や行事の歌、子どもが親しみやすい歌を多く取り入れ、みんなで歌うことや覚えて歌うことを楽しみながら取りくめるようにする。 ・歌詞の意味や心情面について知らせ、理解したり感じたりしながら歌えるようにする。 ・リズム遊びやリトミック遊びを通し、全身を使って伸び伸びと表現すること、友だちと一緒に行う楽しさを味わえるようにする。 ・一人ひとりが感じたことや表現を認め、自分なりの表現に自信が持てるようにしていく。

各学級 学級経営案

年 く	き	◎園生活の見通しを持ち、自分の出来ることを進んで行うクラス ・身についた生活習慣等、進んで行えるよう言葉がけたり、より丁寧に行えるよう指導していく。 ・保育に見通しが持てるよう言葉がけ、余裕を持って行動できるようにする。 ・自分が出来る事を考え進んで行うことと共に、出来る事を増やせるよう意識づける。 ◎友だちに思いやりの気持ちを持ち、積極的に関わることの出来るクラス ・遊びの中で相手の表情、感情に気づき思いやりの気持ちを育めるよう言葉がける。 ・色々な友だちとの関わりを深め、積極的に関わられるよう働きかける。 ・保育者が一人ひとりの気持ちを受け止め、気持ちを受け止めてもらえる嬉しさを感じられるようにする。 ◎様々な活動に意欲を持って取り組めるクラス ・何事にも最後まであきらめず頑張ることの大切さを伝え、意欲を持って取り組めるよう日頃から伝えていく。 ・保育者自身が活動を楽しみ、気持ちを共有する。 ・活動に期待を持ち、意欲が持てるような活動の計画を立てる。 ◎歌やリズム、描画など色々と取組み、伸び伸びと表現できるクラス ・季節の歌など様々な歌を伝え、楽しんで歌えるよう言葉がける。 ・絵本や紙芝居を見る時間を作り、想像力を育めるよう働きかける。 ・友だちの表現や作品に共感したり、協力して表現する楽しさに気づけるよう伝えていく。
	さ く 中 ら	◎人の気持ちを考え、思いやりを持ちながら接することのできるクラス ・相手の気持ちを考えるように常に言葉がけ、意識付ける。 ・トラブルの仲立ちの際、相手がどのような気持ちだったか問いかけ、相手の気持ちに気付けるようにする。 ・友だちに気持ちを問いかけるなど、具体的な方法を知らせ相手がどのような気持ちか気かけながら会話できるようにする。 ◎自分の思いを言葉にし、人に伝えることができるクラス ・子どもが考え発言できる機会を設け、自分の意見を述べる経験を積み重ねることで、自信を持って発言できるようにする。 ・子どもの意見を受け止めることで安心して発言できる雰囲気を作り、子どもの積極的な発言を促す。 ・聞く時はしっかり聞くようメリハリをつけた指導をし、場に応じた発言ができるよう聞く力を養う。 ◎物を大切に扱い、管理ができるクラス ・モノの正しい使い方を伝え、正しい知識を持って扱えるようにし、物の大切さを感じられるよう言葉がける。 ・綺麗に片付いた状態に心地よさを感じられるよう日頃から言葉がけを行い、整理整頓の大切さに気付けるようにする。 ・管理する具体的な方法を知らせ、自発的に持ち物や公共の物を管理できるよう指導する。 ◎けじめを持って生活できるクラス ・話を聞く姿勢を自分で整えられるよう言葉がけ習慣づけるとともに、話を集中できるよう話し方も工夫する。 ・予定や時間を伝え、子どもが見通しを持って行動できるようにする。 ・自分が何をすべきか子どもに問いかけ考えるきっかけを与えることで、やるべきことを自発的に行えるようにする。また、行動を認め褒めることで自分で考えて行動することに喜びを感じ、自信を持って行えるようにする。



各学級 学級経営案

年 ま つ	◎何事にも意欲的に取り組み、最後までやり遂げるクラス - 子ども達が興味を持てるよう活動内容を工夫する。 - 子ども達の意見を取り入れながら活動や遊びに取り組むことで意欲を高め、満足感や達成感を味わえるようにする。 - 運動用具や玩具など、自主的に扱えるような環境を設定する。 - 挑戦する気持ちや取り組むことの大切さを伝えていくとともに、出来るようになる達成感に繋がられるようにする。 - 個々の課題を把握し、それぞれに合った言葉かけや援助を行う。 - 一人ひとりの頑張りをしっかりと認め、自信に繋がるとともに、次への意欲へと繋がられるようにする。 ◎友だちや色々な人に思いやりの気持ちを持って関わるクラス - 遊びの時間を十分に確保することで、友だちや保育者との関わりを深められるようにする。 - 友だちの良いところに気づき発表し合う機会を設けるようにし、色々な友だちの良さに気づいたり、お互いを認め合えるようにする。 - 保育者が思いやりのある行動の見本となり、大切さを伝えていく。 - 色々な場面で相手の気持ちを考えられるよう話をし、接し方や言葉の掛け方について気付けるようにする。 - 意見のぶつかり合いを大切に、相手の思いや表情に気づいたり自分の思いを自分の言葉で伝えられるよう援助していく。 - 子ども同士で解決できるよう必要に応じ見守っていく。 - 友だちが困っている時に気づき助け合えるよう働きかけるとともに、自分がしてもらった時は感謝の気持ちを伝えられるようにする。 - 自分の出来る事を年下の友だちに教えてあげる機会を設ける。 ◎最年長児としての自覚を持ち、自分で考え自分の力で進んで行動することができるクラス - 生活習慣を見通し、身についたことをより丁寧に行えるように一人ひとりの意識を高める。 - 話を聞く大切さについて伝え、人の話をしっかりと聞き理解して自分で考えながら行動できるように指導する。 - 子ども達の考えや思い、行動を認め、受けとめられた喜びを感じ、自分で行動する力に繋げていく。 - 自分たちで考え発展させながら楽しめる活動を取り入れる。 ◎感じたことやイメージしたことを様々な方法で伸び伸びと表現することを楽しむクラス - 様々なことを経験する中で友だちや保育者と思い共有したり豊かな感性を育てていく。 - 素材や用具など子どもが自身で表現できる環境を整える。 - 個々の表現を認め、自信に繋がるとともに伸び伸びと楽しめるようにする。 - 歌や演奏、表現遊びなどの機会を設け、その楽しさを十分に味わえるようにする。
長 た け	◎年長という自覚を持ち、何事にもけじめをもって行動し、友だちや身近な人に思いやりを持って優しく接することができるクラス - 今まで年上の友だちにしてもらったことを振り返り、年長としてどう接するべきかを考える機会を持つことで意識を高められるようにする。 - 年下の友だちに対しお手本となるよう心懸け、引っ張っていく存在という意識を高められるようにする。 - 子ども達自身が思いやりを持って行動できたことなどを保育者が見つけ、クラスで発表することで子ども達自身が意欲を持って活動できるよう心懸ける。 ◎何事にもあきらめることなく挑戦し、伸び伸びと活動することで達成感や充実感を味わえるクラス - 子どもが頑張って取り組んだことに対し、褒め励ますことで自信をつけるとともに、自尊心を養う。 - 子ども達に色々な経験をさせ、保育者は危険のないよう見守り、一人ひとりの自主性を養う。 - みんなで取り組む楽しさを保育者が自ら楽しみ、子ども達の興味関心を引き出す。 - 何事にも丁寧に取り組む事を心かけ、一つひとつの行動を大切に行えるようにする。 ◎共通の目的に向かって友だち同士で思いやりや考えを伝え合い、自分たちで進めることの楽しさを味わえるクラス - 色々な出来事に対し、みんなで考えて意見を出し合うことで自己発言ができるよう見守る。 - 子ども達の意欲を養うことに専念し、興味関心を引きだし、自分たちで出来た喜びを味わえるようにする。 - 一日の流れの見通しを持てるよう話をし、自分で考えて行動できるよう伝えていくようにする。 - 様々な活動に対し、子ども達がどうしていきたいかを考える時間を設けることで子ども同士で考え、進めていけるような雰囲気作りを行い、保育者は見守るよう心かける。 ◎友だちの大切さを感じ、助け合う気持ちを持てるクラス - 友だちや身近な人に対し、優しく思いやりを持って話ができるよう日頃から大きな気持ちを持って接する。 - 困っている友達がいたら進んで声をかけ、助け合う気持ちを持てるようにする。 - 自分がしてもらって嬉しいことを友だちや身近な人にもしてあげられるように意識を高められるようにする。 - 友だちと関わることの楽しさを感じられるよう日頃から積極的に様々な友だちと関わる環境作りを行う。

各学級 学級経営案

	◎友だちを思いやる気持ちを大切にしながら積極的に関わり、思いを伝え合ったり共感し合えるクラス ・自己主張のぶつかり合いを大切にし、必要に応じて保育者が仲立ちとなりながら、相手の思いに気付いたり互いを受け入れられるよう働きかけていく。 ・保育者も子ども達の気持ちや変化に敏感になり、思いやりのある行動や言葉を示し、見本となりながら思いやりの大切さを伝えていく。 ・友だちの良いところに気づき、認め合えるようにする。 ・生活や活動の中で友だちと過ごす楽しさや充実感を味わえるようにする。
年 ゆ	◎年長児として自覚を持ち、何事にも意欲的に取り組み最後までやり遂げ、達成感を味わうことのできるクラス ・子どもの意見を聞いたり任せていくことで年長としての自覚を高め、自身の言動に自信を持てるようにする。 ・活動に興味を持ち楽しみながら取り組めるよう導入・活動内容・進め方を工夫する。 ・個々のがんばりや成長を認めながらそれぞれの課題を明確にし、個々にあった指導を行っていく。 ・それぞれの活動や遊びに継続して取り組める環境づくりを心掛け、クラス全体で応援したり認め合えるようにする。 ◎遊びや音楽・造形活動において、感じたことや想像したことを自分なりに工夫したり、のびやかに表現できるクラス ・個々の発想や表現を大切に受け止めながら活動に楽しく取り組めるようにする。 ・友だちの表現などから様々な表現方法があることに気づき、感性豊かにして、よりのびやかに表現できるよう働きかけていく。 ・素材や用具、楽器など子ども自身が考え、つくり出せるような環境作りを心掛ける。 ・歌やリズム遊び、ダンスなども多く取り入れ、のびやかに表現する楽しさを味わえるようにする。 ◎進んで話を聞き、けじめを持って何事にも自発的に取り組めるクラス ・身についてきた話を聞く姿勢・態度を見直し、継続して伝えていくことで意識して行えるようにする。 ・話に興味を持てるよう話し方や内容を工夫し、子どもに問いかけたり意見を取り入れながら進める。 ・最後まで話を聞く大切さを伝え、集中力を持続できるようにするとともに、自身で考える習慣をつけ、考える力を育てていく。 ・落ち着いて話を聞いたり活動に取り組める環境を整える。
長	



教員自己評価 詳細

分 類	教 員 自己評価項目		園長・副園長・主任 自己評価項目	
	A	教育方針・指導計画	G	家庭連携
	B	健 康	H	安全管理
	C	人間関係	I	学級運営
	D	環 境	J	業務全般
	E	言 葉	K	研修研究
	F	表 現		
		※ 幼稚園運営の自己評価		
		3段階にて自己評価		
		A 十分、達成されている		
		B 達成されている		

A. 幼稚園教育の基本方針と指導計画・保育内容と記録、組織

NO 1 園の教育方針(教育目標)を理解しているか

内 容	教育理念・基本方針が明文化されているか（学校評価、HP他、一般公開）十分、理解・認識している。	A
	園の教育方針（教育目標）を保護者や第三者に説明することができる。	A
	教師が各自、幼稚園教育要領を手元に置き指導計画作成の際や機会あるごとに目を通して	B
	いる。	
	教員として、本園の（教育方針）自らの学年における目標を理解している。	A
	幼稚園教育要領のそれぞれの領域における考え方が、指導計画に反映されて実践している	A
	建学の精神を理解し、実践している。	A
参考物	H30年度に改訂される新幼稚園教育要領について研究・理解に努めている。	B
	本園の教育理念・教育目標・保護者への説明プリント・HPによる公開内容。学校評価。	

NO 2 指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものになっているか

内 容	幼児期の特徴を理解して、それぞれの時期における発達の流れを承知している。	A
	それぞれの子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。	A
	担任だけでなく、それぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場が設けている	A
	一日の反省評価を記載し翌日に主任・園長・副園長の確認を受け自己反省として把握して	A
	いる	
	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、また子ど	A
	もの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的又は必要に応じ設けられている。	

NO 3 指導案(週日案)を重要なものと位置付けているか

内 容	子どもの発達の姿にすべて配慮した指導計画・案となっている。	A
	指導計画、月案・週案などを確認し具体的なねらいを設定した日案を立てている。	A
	活動内容は発達の過程、子どもの興味・関心、生活の流れに応じているか確認している。	A
	計画は、ほかの教員にも知らせて、相互確認をしている。	A
	計画は、子どもの状況や天候などに配慮し、柔軟に実施されている。	A
	思い思いの活動と、クラスや全体での活動のバランスを考慮している。	A

NO 4 教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか

内 容	園長を中心に教職員間で子どもの様子や変化についての情報交換を行い、情報の共有を行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、個別の話し合い（放課後ミーティング以外）が行われている。	A
	情報共有・意思統一は重要であるが、話に夢中になり過ぎ、業務に支障をきたしていないか。	A
	園長を中心に教職員間で連携をし、その子の発達援助を学年として、若しくは全員で行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、家庭での状況を把握すると共に、家庭に園での様子などを伝えている。	A
	教育課程にもとづいて、子どもの発達の状況を把握している。	A
参考物	子どもの育ちの記録	

NO 5 記録の点検・確認がなされているか

内 容	園日誌、幼児個人記録、行事の記録などの記入状況が点検されている。	A
	保育の記録や評価・反省は一定の様式・記入の仕方に従い、記載されている。	A
	記録は適切に保管・整理されている。	A
	保育の振り返りや、次回の計画の際に記録を活用している。	A
	記録・企画書・その他帳票類を上手に活用している。	A
参考物	園日誌、幼児個人記録、反省会議事録、企画書、行事の記録など	

NO 6 教職員間で諸会議が適切になされているか

内 容	連絡会議や職員会議などが、経常的に行われているが（放課後ミーティング）、確実性を以て意識している。	A
	直近の行事や予定など園の計画は、職員会議で周知徹底し、資料によって、わかるように整理している。	A
	会議録・記録簿等 自らが整理してファイリングしている。（個人）	A
	会議の際、意見が積極的に出している。	B
	子どもの発達に合わせた園環境の見直しについて、意識している。	A
参考物	会議録	

NO 7 子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか

内 容	その日の成長の様子や、変化が見られた子どもの様子を記録したり、他教員と話し合っている。	A
	その日のねらいが達成できたか評価・反省している。	A
	反省を生かし、教材研究を行っている。	A
	翌日や週の保育活動や環境構成に生かしている。	A
	反省、評価の方法が、どのように保育に生かされたか、確認している。	A



NO 8 日常の保育が適切に記録し活用されているか

内 容	指導案や幼児個人記録には、保育内容や出来事が記録されている。	A
	個人の記録は、決まった様式・観点で継続的に行っている。	B
	個人の記録は整理し、活用している。	A
	指導要録は進級、進級時に引き継ぎがなされている。	A
	個人の記録の取り扱い、および保管については十分に注意している。	A
参考物	幼児個人記録簿	

NO 9 組織的な仕事が行なわれているか

内 容	各教職員の役割の分掌と責任が明文化されていてしっかり意識している。	B
	職務の実施内容・検討事項などが記録・整理され、活用している。	A
	日ごろから、円滑に組織的な仕事が行われるよう改善に努めている。	B
	年齢・経験の隔たりなく話し合っている。	A
	職員間の仲間意識が「馴れ合い」をうみ、業務中に仕事という意識を薄れさせ、自分中心・自分たち中心の行動をとってしまっていないか。	B
	報告・連絡・相談が確実に行われている。	B
	自分より経験の少ない教員に対し模範となれている。	A
参考物	教職員・園務分掌表	

B. 健康

NO10 子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか

内 容	子どもが安定感を持って行動できるよう教師との信頼関係が築けている。	A
	戸外・室内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている	B
	指導案に子どもが伸び伸びと遊びこめる時間が設けられている。	A

NO11 子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか

内 容	子どもの目が自然と戸外に向くように自然物を豊かにしたり、固定遊具の配置に留意して室内から戸外への動線が連続するようにしている。	A
	教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	A
	子どもが戸外で遊ぶ時間を十分確保している。	A
	戸外遊び時、傍観するのではなく共に遊び、教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	B

NO12 子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている

内 容	子どもが今、どんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解している	A
	子どもの興味・関心を喚起するような環境構成をつくっている。	B
	日々の保育がある特定の活動に偏る事の無いように計画している。	A

NO13 健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか

内 容	遊びや食事の時間等、子どもたちが園生活のリズムを身につけていける指導を行っている	A
	園における生活の仕方を知り、子どもたちが自分で生活や遊びの場を整えていける指導を行っている。	A
	危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。	A

C, 人間関係

N014 子どもが自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行っているか

内 容	子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように常に教師が身近にいる。	A
	集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。	A
	子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。	A

N015 自分の保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか

内 容	トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助している。	A
	友達に自分の思いを伝えようとしている子どもに対して見守り必要な援助をしている。	A
	教師や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考える機会を設けている。	B
	異年齢児との交流の機会が設けられるよう常時意識している。	A

N016 園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか

内 容	子どもたちが社会的ルールや善悪の判断を身につけていくよう配慮している。	A
	子ども達にとって模範となるような態度・習慣を行なっている。	A
	当番活動を日常生活の中でしっかり行っている。	A
	異年齢児との交流を日頃より意識して行っている。	A
	友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。	A
	子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行っている。	A

N017 年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか

内 容	本園教育課程を理解、認識し学級の園児以外にも多く関わった。	A
	異年齢の存在を認識することから段階的に園児に助言、指導した。	A

D. 環境

N018 身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか。

内 容	園内の自然環境を整備し、活用している。	B
	子どもが、（動）植物に接する機会をつくっている。	A
	季節感のある素材を保育に活用したり季節にあわせた室内環境を工夫している。	A
	子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。	A

N019 幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか

内 容	自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。	B
	園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。	A
	掃除や整理整頓に心がけている。	B

NO20 子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか

内 容	子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意し、子ども達に活用を促している。	A
	玩具や遊具、教具が十分に事前に用意されている。	A
	子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。	B
	子どもが、遊びこむ時間を確保している。	A

NO21 子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか

内 容	子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけている。	A
	その日の子どもの活動の様子を振り返りながら翌日若しくは今後の環境を整えている。	A

NO22 保育室(クラス担任の保育室)の環境に常々、留意していたか。

内 容	活動の場としての保育室を常々「清潔」「整理整頓」「危険防止安全対策」に留意している。	A
	保育室内の備品や用具を適切に扱ったか。そのうえで破損等した場合、そのままにせず園長・副園長に報告し、適切に対処したか。	B

NO23 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	園長を中心に職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A

E. 言葉

NO24 子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか

内 容	子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。	A
	自分を表現する力が十分でない子どもに対しては表情やスキンシップなどを通して心情を読み取っている。	A
	毎日または定期的に教師と子どもたちとの会話の時間を設けている。	A
	子ども達にとって模範となる言葉使いや話し方が出来ている。	B
	子どもにわかりやすい言葉でおだやかに話している。	A

NO25 子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか

内 容	グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進められるような機会を設けている	A
	戸外遊びや自由遊びなどの時間を十分に設けている。	A
	子どもたちで解決できそうな場合は、教師が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。	A

NO26 生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に生かされているか

内 容	子どもたちの話の中から出てきた疑問や発見を受けとめクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。	A
	子どもたちの発想や思いをもとにして<例：描画・お話づくり・劇遊び・リズム表現等などの活動につなげている。	A

N027 子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか

内 容	教師が率先して挨拶をし、親しい雰囲気をつくっている。	A
	挨拶の大切さ、意味を子どもたちに伝えている。	A

N028 絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか

内 容	子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。	A
	行事や季節、またそれぞれの学年に応じたものを選んでいく。	A
	絵本や紙芝居は事前に内容を把握し、子どもに伝わるように読み聞かせている。	A
	落ちついた、ゆったりした時間の中で、1日に一度は（若しくは数日に一度）必ず絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。	B

F. 表現

N029 子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか

内 容	子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教師が受け止め共感している。	A
	子どもが自分なりの思いで描いたり、イメージしたものをつくろうとしている気持ちを受け止め共感している。	A
	子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。	A

N030 子どもが生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか

内 容	子どもの興味や関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。	A
	保育室など子どもが見られる所に絵画等を展示している。	A
	子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。	B

N031 子どもが自由に音や動きで表現する機会が設けられているか

内 容	子どもが様々な楽器に触れ、楽しむ保育をしている。	A
	教師が先回りして指示したり、性急に技能的なことを求めたりせず、子どもに自由感を持って活動させている。	A
	教師も子どもと一緒に表現する事が楽しいという姿勢が持てている。	A
	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられている。	A
	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられている。	A

N032 子どもの作品が工夫して飾られる等、丁寧に扱われているか

内 容	一つ一つの作品について、教師がその面白さや大切さを理解するように努めている。	A
	子どもの作品に対する思いや、その作品に関する話を受け止め記録している。	A

G. 家庭連携

NO33 子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか

内 容	日常の様子などは、必要に応じて電話連絡している。	A
	けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。	A
	クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」で確実に伝えている。	A
	保育参観や懇談会において保育内容をより理解してもらえようようにしている。	A

NO34 保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。

内 容	保護者の相談や質問には、丁寧に対応している。	A
	保護者と個別面談や電話連絡などを通じ定期的に子ども一人ひとりの共通理解に努めている。	A
	園の様子や子どもの発達理解のための情報提供に努めている。	A
	個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている。	A
	子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有するよう努めている。	A
	個人懇談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。	A
	子どものことで「家庭（保護者）への連絡」を怠ったことはない。	A
	知り得た家庭事情や子どもに関する情報を他人に漏らさないようにしている。	A
	保護者の家庭状況や変化を把握している。	B
	特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応がなされている。	A
	電話連絡などで、こまめな相互連絡を心がけている。	A
	保護者が理解しやすい、日ごろからの関係・環境を作っている。	A
	保護者理解と個別対応がなされている。	A
	教職員同士での保護者理解のための情報交換・共有をしている。	A

NO35 苦情解決のための取り組みを行っているか

内 容	苦情や質問の苦情解決のための仕組みを工夫している。	A
	教職員が聞いた保護者の苦情や質問などは、主任や園長・副園長に確実に伝えている。	A
	苦情の内容と、その解決方法はすべての保護者に情報として提供されている。	A
	苦情については、職員が保育を改善するための前向きな意見としてとらえている。	A

H. 安全管理

NO36 室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。

内 容	遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストが作成されていて運用している。	A
	安全管理担当者（火元責任、倉庫点検など）を決めて職務を遂行している。	A
	事故や怪我の報告書などがあり、記載し、それをもとに再発防止に努めている。	A

NO37 緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか

内 容	緊急時行動に関するマニュアルを周知徹底、理解把握している。	A
	通報先（警察など外部）にすぐに連絡ができるようにしている。	A
	教師間への連絡連携が取れる体制になっている。	A
	防御スプレー、さすまた等、すぐに使えるようにしている。	A
	消火器の位置を把握し、使い方を理解している。	A

NO38 薬品の取り扱いに十分配慮しているか

内 容	薬を飲ませる場合は、保護者の依頼を受け確実に与薬している。	A
	救急医薬品の置き場所、並びにその内容は確実に把握している。	A
	清掃用などの薬品は、確実に保管するように配慮している。	A
	子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教師にも周知されている。	A

NO39 園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか

内 容	衛生管理について、しっかり意識して実行している。	A
	遊具や玩具が使いやすいように工夫している。	A
	常に園児の「安全」に気をくばっていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際等。	A

NO40 安全・衛生点検に心がけているか

内 容	自らの健康管理に留意し、健康な状態で過ごせるよう留意している。	A
	日ごろから安全・衛生意識の確認を行っている。	A
	定期的に、安全・衛生点検を実施している。	A
	点検リストが準備されていて確実に対処している。	A
	環境構成の際に、安全・衛生点検の視点を組み込んでいる。	A
	行政などからの情報を把握し(光化学スモック情報、PM2.5情報等)、教職員で情報を共有し、安全・衛生点検に役立てている。	A

NO41 園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか

内 容	園児の受け取り、引き渡しの手順が定められている通り対応している。	B
	教職員間で手順や方法について、定期的に確認し、保護者にも周知している。	A
	父母でない者への引き渡しのルールがあり、周知されている。	A
	子どものその日の健康状況などを見て、確認している。	A
	子どもの受け取り、引き渡し場所（バス通園・直接園）の安全を確実に確認している	A

NO42 施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか

内 容	職員ひとりひとりに、危険・安全について意識を高めている。	A
	点検リスト、点検簿があり、定期的に記録している。	A
	複数の教員により点検を確実に実施している。	A
	不備が見つかった場合、緊急度を考慮して対応している。	A
参考物	点検記録簿・マニュアル	

NO43 不審者への対応がなされているか

内 容	日常から子どもへの、啓蒙活動をしている。	A
	子ども・職員に、防犯教育を行っている。	A
	常日頃、防犯カメラを意識したり入門者が入門許可証を所持しているか等確認する等、安全対策を自分のこととして理解し行動している。	A
参考物	不審者対応マニュアル 監視カメラ 不審者対応用防具類 緊急連絡の設備方法	A

NO44 事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか

内 容	事故の危険がある場所をチェックし、改善に努めている。	A
	事故発生時の対応マニュアルが作成されていて、保護者に周知されている。	A
	教職員間で事故発生時の対応の仕方や分担の話し合いがなされ、連携のとれる体制が作られている。	A
	保護者へ、事故の経緯・対応や改善策が説明されている。	A
	事故対応後は、速やかに問題点を明らかにし、改善策を講じている。	A
参考物	事故記録簿・報告書	

NO45 弁当・給食における安全衛生対策がなされているか

内 容	弁当・給食の保管場所に留意し、適切に管理している。	A
	子どもの食事に注意を払い、喫食状況を把握している。	A
	保護者にバランスのとれたメニューや、食育についての情報提供を行っている。	A
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。	A

I. 学級運営

NO46 保育室は整理・整頓が行き届き、安全にも配慮した環境にしているか

内 容	掃き掃除や拭き掃除が行き届いていて、いつも清潔な環境で子どもを迎えている。	A
	子どもの動線なども考え、安全に配慮した環境になっている。	A

NO47 個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか

内 容	登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。	A
	子どもの内面を見ることを心がけながら、保育をしている。	A
	一人ひとりの子どもが、落ち着いて遊んだり生活できる場になるように工夫している	A

NO48 子どもとの信頼関係の確保に努めているか

内 容	クラスの子どもには、ひとりひとりに対して毎日言葉がけをしている。	A
	園全体の子どもの名前を覚えている。	A
	スキンシップやあそびを通して、子どもとの関係を深めている。	A
	子どもへの言葉遣いや対応が適切であるか、教職員間で確認している。	A
	子どもの自主性を尊重し、好ましい人間関係を作っている。	A

NO49 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている。	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	B
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A

J. 業務全般

NO50 社会人としての最低限の職場のマナー、礼儀は自分でできていると思うか

内 容	挨拶、笑顔、電話応対、言葉づかい。態度、マナー、行儀。	B
	職員間での約束事、業務として教員会議で決定されたことを貴女は遵守しているか。	B
	期限や取り決めの時間を遵守しているか。	B
	報告の義務は怠ったことはないか。	B
	園務分掌・行事の担当者それぞれと十分に協議を行い「企画」したか。先輩職員の説明や同輩、後輩の職員の意見など活発な取り組みの姿勢があったか。	A
	会議での発言、発表、説明などは十分に行えたか。	B
	広い視野にたって「園児」「業務」を観ているか。	A

NO51 日常業務について

内 容	園からの配布物(手紙等)は、決められた期日に配布している。また、その内容を熟知し理解している。	A
	幼稚園の単なる一担任ではなく、幼稚園を代表する一人として意識し、業務についている。	B
	メリハリを持って業務を行っている。	B
	お歩きの降園時に音楽をかけたり門を開ける等、複数教諭で業務にあたる際、先輩後輩関係なく他教諭任せにせず自ら率先して行動している。	A
	経費節減のため、無駄な教材使用やコピー節減に意識して努めている。	B
	園務分掌、行事担当、その他の役割分担をしつかり意識し、消化し業務を遂行している。	A

K. 研修と研究

NO52 園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか

内 容	主任他、他教員とコミュニケーションをよくとり、他の教師の助言や保育技術を参考にしている。	A
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。	A
	保育について教職員間で話し合ったり、指導や協力体制が確立されている。	A
	自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。	A

NO53 専門書や雑誌を読む等、保育技術を高めるための努力をし、習得した事を実際の保育に生かしているか

内 容	定期的に購読している教育書や保育雑誌がある。	A
	公開保育に積極的に参加したり他の教師の保育の様子を見学するよう努めている。	B
	夏期休暇等を利用して研修・教材研究を行っている。	B

N054 教材の研究、題材の研究をその活動ごとにまたは、定期的に行ったか。

内 容	定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究した。	A
	「教材研究」を日頃より留意し、保育に生かしている。	B

N055 食育について、どのように取り組んでいるか

内 容	園として食育に取り組み、教員して実践している。	A
	教員間で食育について話し合い、共通理解を図っている。	A
	折にふれ、保護者に食育の方針について説明をしている。	B

幼稚園運営の自己評価

幼稚園教育の基本方針と組織

1-1 園長・副園長・主任教諭は、リーダーとしての責任を果たしているか		
A	園長・副園長・主任は、園運営に関するビジョンの提示やさまざまな情報収集と提供を行っている。	
	園長・副園長・主任は、園運営の中心となり、教職員と協力して問題解決に努めている。	
	積極的に研修会に参加し、自己研鑽を図り、相談力・助言力・説明力・調整力・リーダーシップなどの向上に努めている。	
	折にふれ、園長の保育観や考え方を教職員や保護者に伝えている。	
	教職員と一緒に問題解決について、適切な判断が行われているか点検・評価を行っている。	
備考	園長のビジョンを明文化し伝える物	

1-2 地域交流と貢献を心がけているか		
A	教職員は地域交流や貢献の大切さを理解している。	
	園の行事などに積極的に地域の人の参加を呼びかけている。	
	日常において地域の人との信頼関係を積み重ねている。	
	積極的に地域の文化・自然を活用して保育を実践している。	

保育内容の確認 [幼稚園全体]

2-1 環境問題への配慮がなされているか		
A	節水、節電に努めている。	
	保育の中で環境教育を行っている。	
	自然体験を通して、環境の大切さを知らせたり、深める活動を取り入れている。	
	園での取り組みを保護者に知らせ、理解してもらっている。	
	地域との連携を意識して行っている。	

保育内容の確認 [教員]

2-2 行事の配置は適正か		
A	年間行事計画を作成している。	
	その年の子どもの実態に合わせ、行事を編成している。	
	個々の行事について教職員と十分に話し合い、必要に応じ見直しを行っている。	
	日本の文化や季節感のある行事を取り入れ、子どもに伝えている。	
	保護者や地域の人たちとの関係作りに配慮している。	
備考	年間行事計画	

研修と研究

3-1 人材の計画的な確保、育成をしているか	
内 容 B	保育に必要な教職員数を計画的に確保している。
	園外の研修の参加を促進し、また園内の研修の実施に努めている。
	社会人としての良識とマナーを含めた研修を実施している。
	研修担当をしっかりと決め、責任をもって新人の育成にあたっている。
	非常勤職員にも、園の方針について研修を行っている。

3-2 園外研修が適切に行われているか	
内 容 A	園外研修に出やすい雰囲気を作り、積極的な参加を促している。
	参加者は、目的意識をもって事前の準備をし、参加するようにしている。
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。
	年間を通して、計画的に園外研修を行っている。
	一年間を反省し、次年度の計画を立てている。

3-3 特別支援に対応しているか	
内 容 A	支援を必要とする子どもの受け入れの必要性を共通理解している。
	教職員は、日ごろから支援を必要とする子どもに関する一般的理解を深めるよう研修会に参加している。
	個々の子どもの理解が進むよう、保護者、教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図っている。
	医療機関や関係機関と連携をとり、必要な情報を全教職員が共有している。
	支援が必要な子どもに沿った環境整備がなされている。

3-4 いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われているか	
内 容 A	いじめ・差別・性差別などについて教職員の共通理解、情報交換を行っている。
	いじめ・差別・性差別などの課題について、保育の中での取り扱いに留意している。
	子どもや保護者にもわかりやすい説明を行っている。
	研修会に参加し、専門的な知識を得るよう努力している。
	保育のなかでも、子どもたちにわかりやすく説明をして理解をしてもらっている。

3-5 幼小連携に努めているか	
内 容 A	幼小の連携の必要性を理解している。
	発達や学びの連続性を理解し、スムーズな接続に向けて教職員の研修を図っている。
	小学校との情報交換や連携に努めている。
	子どもたちに進学への期待や心構えなどを話す機会を設けている。
	保護者に対して、進学への心構えや、先輩の体験談などを伝える機会を設けている。

幼稚園機能の拡大

4-1 地域の子育て支援に対応しているか	
内 容 A	幼児期の地域の教育センターとしての役割や、子育て支援の意義を理解し実施している。
	子育て支援について、教職員の協力体制や情報交換を心がけている。
	子育て情報の発信や、地域の施設・機関と連携した子育て支援を心がけている。
	未就園児への対応や、園庭開放を行っている。
	安心して悩みを相談できる、子育て相談の場を提供している。
備考	告知情報媒体など

4-2 未就園児への対応を行っているか	
内 容 A	計画、案内が地域に知らされている。
	意義を理解し、実施している。
	目的や使命を教職員に伝えている。
	子どもの状況に応じた対応を心がけ、保護者ニーズを把握している。
	子ども同士に限らず、保護者同士の交流にも心がけている。
備考	告知情報媒体など

4-3 預かり保育を適正に実施しているか	
内 容 A	子どもの一日の生活を考慮し、施設や設備などの環境を整えている。
	子どもが長時間過ごすことができるよう、生活リズムに配慮し、保育内容や方法を工夫している。
	担当者とはほかの教職員の協力体制や、情報交換を心がけている。
	預かり保育を利用する保護者との緊密な連携を心がけている。
	正規の教育時間内の活動に、支障のない範囲で行っている。
備考	預かり保育日誌 園案内

4-4 実習生の研修の場の提供を適切に行っているか	
内 容 A	実習生の受け入れ体制を整備している。
	実習生受け入れの意義を、教職員間で共通理解している。
	実習生には、事前研修、オリエンテーションなどを行っている。
	幼児教育の大切さや、園の方針・園児とのかかわり方の基本などを知らせている。
	養成校と連携し、情報交換を心がけている。
備考	研修リスト 実習生の保育日誌 実習生心得

4-5 情報公開を適正に行っているか	
内 容 A	私学法や設置基準で定められた園の情報を、わかりやすく情報公開するように努めている。
	ホームページなどの電子媒体や掲示板、手紙などを利用し、広く園の方針・活動を地域に知らせている。
	園便りや、クラス便りの定期的な発行など、保護者を対象として情報の提供を行っている。
	保護者や地域の人などに、園の活動や地域における幼児教育のセンターとしての活動についての情報公開をしている。
	自己点検・自己評価の結果についての情報公開を行っている。

諸法規の遵守

5-1 健康診断を実施しているか	
内 容 A	子どもの健康診断を定期的に実施している。
	子どもの健康診断の結果は、保護者に知らせている。
	診断の上、気になる子がいたら、園医・教職員・家庭と連携を図っている。
	健康診断を子どもの健康な発達のために生かしている。
	教職員の健康診断を毎年実施している。子どもの健康の記録・教職員の健康診断の記録

5-2 労働基準法に対応しているか	
内 容 A	法改正に応じて、就業規則および関連協定が整備され、遵守されている。
	新しい規則に対応した就業規則および関連協定の届出がなされている。
	労働協定・就業規則・給与規定、旅費規程、履歴書、雇用契約書、成績証明書、免許証の写しなどが整理保管されている。
	教職員が必要な書類を閲覧でき、また内容について周知する機会を設けている。
	常に職員の労働環境について配慮している。
備考	就業規則 諸規定 労働基準局への届出 教職員履歴書つづり 勤務時間管理

5-3 道路交通法に対応しているか	
内 容 A	園車両や教職員車両の任意保険加入状況および更新時の内容を確認している。
	定期的に安全教育や、話し合いを実施している。
	定期的に車両の整備状況を確認している。
	事故の際の対応手順は、定められたマニュアルがある。
	園周辺の交通安全には、特に配慮している。
備考	バス運行マニュアル・運行記録 地図 安全運行の保護者への周知 保険契約

5-4 虐待防止などの対策、対応がなされているか	
内 容 A	虐待の発見や防止のための研修や話し合いが行われ、教職員の共通理解がなされている。
	発見や疑念をもった場合の対応方法のマニュアルがある。
	関連施設との連携を図っている。
	保護者にも虐待防止についての説明がなされている。
	普段から子どもの様子や変化に注意を払っている。
備考	視診・対応マニュアル 虐待防止に関する話し合い記録

リスク対応

6-1 任意保険の確認を行っているか	
内 容 A	賠償、傷害、火災、自動車保険に加入している。
	更新時には、賠償内容の説明を受け、補償額の確認をしている。
	教職員、保護者に保険内容を周知している。
	園児ひとりひとりが傷害保険に加入している。
	常に園の抱えているリスクをイメージして、保険を考えている。

6-2 社会的事件からの学習、対応がなされているか	
内 容 A	子どもに関連する事件・事故の情報収集を全教職員が行っている。
	収集した情報にもとづき、教職員間で問題を把握、共有し、対応策を講じている。
	関連情報や対応策を保護者に説明している。
	地域や保護者との連携を図っている。
	子どもたちに安全教育を施している。

6-3 コンピューター・インターネットの安全管理がなされているか	
内 容 A	コンピューターの故障、ウィルス対応のためのバックアップ対策がしてある。
	コンピューターの盗難、廃棄の際の情報管理がなされている。
	ホームページの管理は定期的に決められた人がチェックしている。
	コンピューター本体、重要なデータなどは、厳重に管理している。
	個人情報ファイルには、必ずパスワードを設定している。
備考	バックアップ ウィルス対応ソフト 更新 情報流失

適正な事務処理

7-1 園の重要書類の管理がなされているか	
内 容 A	責任者を決め、重要書類の保管、管理が正しく行われている。
	災害などでの、緊急持ち出しが可能なように整理されている。
	書類は定期的に確認され、決められた手段で処分されている。
	重要書類は、施錠できる場所に保管されている。
	持ち出しが必要な場合、持ち出しのルールや手順が決められている。

7-2 必要な書類や、公文書などの処理が適正に行われているか	
内 容 A	公文書の受信・発信簿が整理されている。
	公文書受付時の処理担当者が決められている。
	必要な公文書は教職員に周知されている。
	必要な書類が整備され、正しく更新されている。
	諸規定・保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管されている。
備考	公文書 園則・寄付行為・就業規則・給与規定・旅費規程・経理規定・自衛消防計画・車両運行規定

7-3 園の情報公開が適正に行われているか	
内 容 A	保護者などから情報公開請求があった場合、法に定められた内容に従い公開している。
	保護者などから情報公開請求があった場合の、手続きや対応が決められている。
	公開された情報が、わかりやすい情報かどうか保護者に確認している。
	情報公開すべき書類などについては、常に整理されている。
	責任者を決め、保管、管理が正しく行われている。
備考	情報公開のルール、財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書など (私学法)

研修内容詳細目 関連項目／K.研修と研究 323

下記の 園内研修を実施。また園外研修に参加

(1) 園内研修・研究保育

	研 修 日 時	研 修 内 容	研 修 者
1	2017年4月10日	体育指導研修	全教諭
2	2017年5月16日	園内保育研修（製作活動） さくら組	教諭 井上桃香
3	2017年5月17日	園内保育研修（製作活動） たんぽぽ組	教諭 久保田和実
4	2017年5月30日	園内保育研修（新聞紙遊び） もも組	教諭 藪田唯夏
それぞれの研究保育の後、評価・反省会議を実施			

(2) 園外研修・研究保育

記載以外に園長 山口尚志は、枚方市園長会研修に参加、出席

	研 修 日 時	研 修 内 容	研 修 者
1	2017年4月28日	園長等専門研修A 「幼稚園等における合理的配慮の実際」	園 長 山口尚志 副園長 山口哲也
2	2017年5月10日	自然災害への備えに関する要配慮者利用施設管理者向け説明会	副園長 山口哲也
3	2017年6月09日	大私幼設置者・園長研修 「就業規則とメンタルヘルス」	副園長 山口哲也
4	2017年7月26日	私学助成園研修会 「幼稚園が私学助成で存続する意義」	副園長 山口哲也
5	2017年8月7日 ～8日	平成29年度幼稚園・認定こども園新規採用教員研修会	教諭 井上桃香 教諭 久保田和実
6	2017年12月6日	インターンシップ・1dayプチ体験合同説明会	副園長 山口哲也
7	2018年2月9日	発達障害児の行動理解と支援の工夫	教諭 中野志保 教諭 久保田和実
8	2018年3月1日	枚方市幼稚園教諭研修(2)	教諭 大堀由香 教諭 井上桃香
9	2018年3月27日	第61回大阪府私立幼稚園教育研究大会	教諭 甲斐美由記 教諭 安井沙也佳 教諭 坪川沙保里 教諭 大堀 由香 教諭 長倉絵梨華
10	2018年3月28日	大阪府私立幼稚園連盟 平成29年度第2回本部研修	副園長 山口哲也



第9節. 学校関係者の評価 9-1

学校関係者における意見・評価については、2017年3月末から4月初旬にかけて、これを依頼し、その意見・評価を求めた。下記にその意見内容を記し、これを公開する。

尚、学校関係者は、本園父母会役員並びに地域関係者あわせて16名を以て成し、意見・評価を依頼した。

また、昨年同様に地域公人の方1名、本園理事会に報告する前段階として、本園理事1名（いずれも16名に含む）にこれを依頼した。**学校関係者の名列はこれを非公開とする。**

ご協力いただいた学校関係者諸氏に感謝申し上げます。

A委員 [№1]

頭の中に『青葉幼稚園の子ども達はいきいきととても元気!』と浮かんできます。それは学校評価、自己評価にあるとても細かく設定された教育方針と全学年、各学年、各学級に設定された教育目標に向け先生方が日々ご指導して下さい、子ども達一人一人を理解して下さいのおかげなのだと感謝しております。

また残念ではありますが、子ども達の園生活を不安に思わせるような出来事もありました。その際もすぐに対応して頂きオートロックの門に替えるなど安全管理の面でも安心して子供を預けられる園だと思いました。

たくさんの園行事で子供の成長もまじかに感じられ、異年齢保育やデイサービス訪問などで相手を思いやる心も育っているように感じます。

これからも子ども達が伸び伸びと楽しく過ごせる幼稚園であって欲しいと思います。

B委員 [№2]

学校評価・自己評価を拝見させて頂きました。とても細やかな設定が書かれてあり、一年でこれらの内容を実行・行動して下さいのおかげで、毎日休まず楽しそうに園バスに乗る娘の姿があり、園長先生や先生方のおかげだと感謝しております。

日々の園生活・行事等、先生方は大変と思いますが、子ども達にとって安心できて楽しい青葉幼稚園であってほしいと思います。

C委員 [№3]

青葉幼稚園の学校評価・自己評価を拝見させていただきました。教育目標は明確であり、各学年、年齢に合わせた活動・指導内容に深く共感しました。青葉幼稚園の教育理念とともに、子ども達の心と身体がのびのび育つことを頼もしく思います。

自己評価につきましても、今後取り組む課題点をあげておられ、それを実践されている先生方の思いは保護者に伝わってきます。是非これからも、園と子ども達の生活充実のための評価取組を継続していただきたいです。

第9節. 学校関係者の評価 9-2

D委員 [№4]

新年度公開の学校評価・自己評価を拝見いたしました。毎年教育目標・学級経営案が細かく検討されており、読み応えがあります。今年度は学年ごとの目標にさらに高度な内容が加わり、子ども達への期待を感じました。諸評価については概ね適切かと思いますが、教員自己評価の「組織的な仕事」の評価がやや低いので、先生方個人の負担が大きいのかなと気になりました。

旧年度は園長先生がよく「学校法人運営の在り方」についてお話されていた印象があります。世間取り沙汰されていた事件の影響もあったかと思いますが、私達保護者にとっても子どもを預ける環境について考えるよい機会になりました。今回、認定こども園への移行について大幅追記がなされ、青葉幼稚園も移行について新たなステージに立たされたのだなと感じました。保育無償化・保育者の待遇改善といった社会のニーズに応えつつ、これまで通りの保育の質と安全を確保するのは簡単なことではありませんが、「たくましく人間性ゆたかな子どもをめざす」という建学の精神を大事にしつつ柔軟に対応していただければと思います。

園での数々の行事、日々の生活の中での園児同士のふれあいを通じて、我が子もたくましく成長することができました。就学前の一年間は、デイケア施設や小学校の訪問を経験し、園から巣立って“地域”という社会へ出ていく心の準備をさせていただき、子どもも自信を持って新しい生活をスタートさせることができます。家庭では味わうことのできない感動をたくさんありがとうございました。これからもあおばっ子たちが伸び伸びと楽しく過ごせる場所として、くずは青葉幼稚園があり続けることをお祈り申し上げます。

E委員 [№5]

評価読ませていただきました。園の教育内容につきましては、全く不満がなく大変満足させていただいております。行事につきましても、一年間を通して様々な行事がバランスよく行われ、子どもも私も大変楽しませていただいております。

子ども達が充実した園生活を送れるのも、先生方の想いのおかげと改めて実感致しました。

F委員 [№6]

学校評価・自己評価について細かく設定されていることにとても感心いたします。特に各学年での目標だけでなくクラス毎にも達成目標があるのはとても良い事だと思います。各クラスの個性を伸ばしていくことにも繋がるのではないのでしょうか。より細かな情報公開により、保護者として安心して子どもを預けることができます。

良いところはそのままに反省点を来年度に活かして、子ども達にとって素晴らしい幼稚園であり続けてほしいと思います。



第9節. 学校関係者の評価 9-3

G委員 [№7]

くずは青葉幼稚園の特徴は何よりもまず、建学の精神をはじめ、幼児教育の重要性が随所に見られることです。最近では、よく「子育て支援」などとも言われますが、くずは青葉幼稚園では、子どもは「育てる対象」、「支援される対象」ということよりも、子どもたち自身が自ら育つ、「自立」から「自律」への「子育て」の大切さを説いています。こうした明確な理念に基づき、手法として様々な取り組みを行っておられます。園で行われる全ての行事は、この明確な理念を実現するための手法に過ぎません。ひとつひとつに課題や目的が掲げられ、それを達成していくことで、子どもたちの子育てにつながっています。このように理念が明確で、全ての事業が理念から派生したものであるということから、保護者からすると各行事での子どもの成長がはっきりと見て取れ、それが安心感につながり、園に対する信頼感が生まれています。

さらなる安心感、信頼感を生んでいるのが、徹底した情報公開です。理念が明確であり、教育や保育の内容にある意味での自信があるからこそ、幼稚園ではまれに見るほど日々の公開を行っています。また、今、私が評価をさせていただいていることもそうですが、こうした自己評価を包み隠さず行っている点も正直申し上げてなかなかできることではありませんし、他園ではあまり見られないようです。そして、各行事のあとには今後の運営に活かす目的で保護者のアンケートを取り、保護者の声を極力教育内容に取り入れようという姿勢も評価できます。多種多様な保護者の声からすれば、全てに対応することは実際には困難であるものの（もちろん保護者もそれを理解している）、集計結果を詳細に報告しつつ、園としての何らかの決断・ジャッジに至る経過や理由を説明し、丁寧に理解を得ようとするスタンスは、保護者側からすれば仮に意見が通らなかったとしても、納得性が高まり、結果として園と保護者が一体となった幼稚園運営につながっていきます。園として、保護者に「なぜ」を説明しているということは、日々の教育・保育の中で、子どもたちに「なぜ」を教えている、ということに他なりません。

自己評価の中には、A評価が中心の中で、B評価も散見されるわけですが（B評価も「達成されている」があるので、問題はない）、こうしたそれぞれの評価の如何に依らず、上記に述べたように、徹底した情報公開、保護者の声をフィードバックし説明すること、これらを続ける限り、健全な園運営は今後も維持・発展していくものと考えています。

H委員 [№8]

青葉幼稚園の学校評価並びに自己評価の教育指針について、年長・年中・年少児の学年の目標、実に細かい系統立てた配慮がされていることに感心している。異年齢児による教育活動の取組は一年を通じて子ども達の成長、思いやる気持ちを育むうえにもこの上なく大切なことだと拍手を送りたい。

全てが入園式から卒園式に見る子ども達の姿は一目瞭然、子ども達の園長に対する目線・表情・また園長の子どもに向ける表情は何も言わなくても日常の細かい配慮、繋がりやの表れだと感じられる。子ども達に話す姿勢は一言一言、心のこもった言葉。気の根の部分から大きな幹へとの手助け。本当に本当に素晴らしい。園全体の方針に今後も期待します。



第9節. 学校関係者の評価 9-4

I 委員 [№9]

学校評価・自己評価を拝見させていただき、一つ一つの項目が偏りのない設定でその項目に対する各職員の方々の前向きな評価に、安心を感じるとともに、細かく適切なお配慮のもと、子ども達を見ていただいていたことに改めて気づかされました。

近頃は、大人の目が過度に行き届き、物にも恵まれる中、受動的な子どもになりがちですが、青葉幼稚園がつくりだす環境で年少⇒中⇒長を経て、自発的に遊び友だちと関わる中での小さなトラブルに対し、自ら向き合おうとする姿勢を我が子を通し見ることが出来ました。たった3年間はこんなにも大きな3年間だったかと驚くとともに、この環境に感謝しております。

年々、幼稚園や子どもを取り巻く環境は堅苦しくなっているとは思いますが、青葉幼稚園としての確固たる信念と職員の方々が一丸となって臨まれる姿勢に安心し、今後も変わらぬ青葉幼稚園であってほしいと願っております。

J 委員 [№10]

学校評価・自己評価拝見させていただきました。教育目標が学年別だけでなく、学級別にも細かく設定されており、先生方が熱意を持って子ども達と向き合っていると感じます。また、異年齢活動を通じて、相手を思いやる気持ちや年下のお友だちに対する優しい気持ちが育まれているように思い、成長を感じています。

毎日、更新されている園日誌もいつも家族で楽しく見ています。大変な作業だとは思いますが、是非今後も続けていただきたいです。これからも子ども達にとってよりよい幼稚園であり続けることを願っています。

K 委員 [№11]

丁寧にかく、クラス・学年・園として教育目標が設定されており感心しました。園長先生の信念のもと、先生方が一丸となって子ども達のより良い心と身体の成長を願い、指導して下さっている熱意が伝わってきました。

毎日更新してくださるブログでは、日常の子ども達の活動、生き生きした表情を見ることができます。園長先生の想いや子ども達の様子を気軽に知ることが出来るありがたい仕組みのひとつで日々の忙しさの中続けて下さっていることに感謝します。

幼稚園側からの情報開示については、大変満足しているところではありますが、保護者側からの意見要望についてはなかなか伝える機会が少ないのが現状だと思います。冬期・春期休み、進級当初の預かり保育の充実に関しては改善を願っている方の声も聞きます。生活発表会では先生の経験年数や力量の差、演出や衣裳の華美さ、それらに差が見られるようになり、クラスカラーといえませんがそれまでですが楽しみにしている最後の大きな行事として、同学年内であまりに差があっては保護者として疑問を感じる点もありました。

たくさんの子どもの預かる園として、全ての保護者満足を得ることは難しいことですが、行事だけに係わらず、普段の保育・園の方針・活動内容等々についてもアンケートや意見を聞く機会を設けることで、より良い園のあり方を検討して頂き、更なる貴園の発展を願っています。

第9節. 学校関係者の評価 9-5

L委員 [№12]

教育目標・指針が学校全体・学年ごとに詳細に設定されているとともに、各クラスの経営案もそれらを踏まえて検討されていることがよく理解出来ました。また、保育者が各園児の発育や日々の活動状況を記録し、保育者間で情報共有や意見交換等を行いながら、より良い教育になるよう検討・改善をされていることがよく分かりました。

これらの教育目標・指針等に基づき、運動・工作・音楽等の多岐に渡る活動を通じ、子ども達の心身の成長、自主性の向上を促す指導を実践していただいていることは参観等で実感しており、感謝しています。

最後に、今後に向けた提言ですが、各クラスの経営案については年度当初に保護者向けに公開されてはいかがでしょうか？担任の先生が学年ごとに教育目標・指針に基づき具体的にどのような指導をしようとしているのかが把握できる資料ですので、学校と各家庭の連携強化に繋がると思います。

M委員 [№13]

<教育機関としての青葉>

保育園は「生活」であるのに対し、幼稚園は「教育」ですが、青葉幼稚園はとりわけ「教育」の色が濃い幼稚園であると思います。

<苦情・質問への対応について>

保護者の意見に常に耳を傾けつつ、園としてのビジョン提示を折に触れされています。園側の主張を知る機会があると、対応や方針に不満を持つ保護者も納得しているようです。どの家庭も、親子共々気持ちよく幼稚園生活が送れるよう常に配慮があると感じています。

<年度初めの午前保育について>

近年、幼稚園児のお母さま方も仕事を持つ方が多くなる中で、年度初めの長い午前保育期間は非現実的であり、働く方々にとって大きな悩みとなっているようです。委託やパートタイマーの雇用でも十分だと思うので、午前保育中も預かり保育の実施をお願いしたいです。さらには長期休暇中の預かり保育の充実を目指していただきたいです。

<作品展について>

園児たちの作品が最も輝いて見えるディスプレイで、毎年素晴らしいと感じます。図画工作が得意な子どもそうでない子ども、うまく作品を仕上げられるようご指導いただいているのでしょう。ヒントの出しすぎか、やや画一的になりがちなので、より一人一人の個性が発揮できればさらに良くなると思います。（よく「同じような絵だね」とつぶやいている方を見かけるので…）

<退職される先生について>

園児たちにとっては、「大好きだった先生が突然いなくなった」との印象があります。是非、離任式という形で年度初めにでもお別れの間を作っていただきたいと思います。

なお、先生方のプライバシーを考慮し、年度末に進退を公表しない方針には大いに賛成です。

第9節. 学校関係者の評価 9-6

N委員 [№14]

「4ページ第4節、および23ページ 教員自己評価について」

平素から子供が楽しく通園しており、親としても素晴らしい幼稚園だと感じている。特に次男は入園当初、登園を嫌がりどうしようも無かったが、今年度は皆勤であった。先生方には心から感謝している。自己評価が全てBまたはAであることが、その素晴らしさの表れとも言えるだろう。しかし、敢えて言わせて頂けるならば、Cが一つもないということは、改善点を見出しにくいということでもある。23ページに、自己評価3段階の内訳は、A「十分、達成されている」B「達成されている」とあるが、Cはどのような質問だったのか。3段階よりも4段階にした方がより細かく評価が出来ないだろうか。文科省が「幼稚園における学校評価ガイドライン」で示しているサンプルでは、評価項目としてC「取り組まれているが、成果が十分でない」「取り組みが不十分である」を取り入れた4段階となっている。今後、現行の3段階から4段階にすることで、より先生方の評価が細くなり、新たに見えてくることもあるのではないか。（無理やりCやDをつける必要は無いが・・・）

「5ページ第6節 財務状況について」

学費の値上げは正直な所、親としては苦しい所であるが、それが致し方ないのであれば一層の教育環境充実を期待したい。5ページには改修工事の実績が記されている一方で、7ページに「保育の現場で働く者にとっては賃金が高い方が良いであろう」とある。先生方への投資も一層積極的に行って頂き、優秀な先生方が多数集まっている幼稚園であり続けて頂きたい。親にとって最大の関心事である。

「その他 耐震化について」

5ページ、財務状況の項目に、改修工事について記載されていたので耐震化工事に関心がわき、大阪府のホームページから、青葉幼稚園の耐震化への取り組み状況を拝見した。平成28年4月時点で、遊戯室を除く全ての設備が現行の耐震基準に適合しておらず、耐震化も未定となっている。園児はもちろん、先生方の安全を考えると、早急に対応が必要と考えられるが、補強する、あるいは再建する等、今後の予定をお尋ねしたい。

O委員 [№15]

学校評価・自己評価について先生方が一人ひとりとても高い志を持って教育に向き合っていることにとっても感動しました。青葉幼稚園では同学年の友だちと同様に、異年齢のお友だちとも関わりが多く、子どもから聞く子どもの名前は同学年に限りません。その中で自然にお兄ちゃんお姉ちゃんを敬う気持ちや小さな子に優しくする、助けてあげるといった気持ちが育ち、本当に「たくましく人間性ゆたかな子ども」が育っているなという印象を受けます。

細かく設定された教育目標・学級経営案は分かりやすく自己評価においても適切であると感じます。

P委員 [№16]

園、学年、各先生方がしっかりと目標を設定しとても細かく自己評価をされている事に敬意を表します。

本年も事故無く、子供たちが楽しくのびのびと楽しめ、学べる園を全職員で作り上げられることを願います。

以上、学校関係者16名の方の評価・意見を公開します。

2017年度／平成29年度

くずは青葉幼稚園 学校評価・自己評価について

以上の通り、公開します。

併せて「認定こども園移行」に関しての見解を表明します。

2018年4月10日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

園長 山口尚志



学校法人山口学園

2017年度／平成29年度 くずは青葉幼稚園・学校評価

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

<http://www.k-aoba.ed.jp/> Mail address info@k-aoba.ed.jp

2018年4月10日発行 本書は44ページを以て成し、「学校関係者の評価」以外の文責は園長・山口尚志であることを記す。